

名古屋芸術大学

後援会報

第44号 2008年3月31日発行

## 卒業生に贈る言葉



後援会長 馬場 達郎

ご卒業おめでとうございます。大学生活はどうか。名古屋芸術大学で音楽、美術、デザイン各科の勉強をされ、それぞれの進路に向い社会人として第一歩を踏み出されました。これから始まる生活、ひとり一人の心に夢の灯をともし希望をもって、決めた道を目指に向かって情熱をかき立て歩いて下さい。もしも困難にぶつかった時、自分に暗示をかけましょう。最初から完璧な人はいない。信念を持ってアンテナを張るとチャンスは様々な角度からやってくる。気持ちを楽に、自分を追い込む事は避けて下さい。「あーもうだめだ」なんて、立てなくなったらだれかに話を聞いてもらうのもいい、反対に話を聞いてあげられるのはもっといい、思いきって地面に寝ころがってみよう。広い空、流れる雲、どこまでも続くひこうき雲、夜の星を見てみよう。千の風とは言わないが自然の息吹を感じてみよう。目線を変えると、いつもの風景も違った何かを受信し発信出来るはず。名芸大の君達は優れた感性を磨いてきたはずです。

これからは、社会で会社でバイト先で自分をプロデュースしてみよう。コミュニケーションがとれないなんて言わず笑顔で御近所さんに挨拶してみよう。生活が変わると自分の自由な時間もなかなか取れなくなると思いますが、でも「一日を十日として日々を楽しむべし」と貝原益軒の「養生訓」にある言葉で、時間には物理的な時間とは異質な「魂の時間」とも言える時がある。同じ一日二十四時間でも充実した時間、感動を味わった一日は十日にも思える。人の生き方により一月を一年、一年を十年に生きる事が出来ると。誰かの真似で結構、お手本プラス自分流プラスアルファも込めて生きてほしい。強い信念こそが成功への道だと思ふ。団塊の世代の私は、希望に満ち輝いている君達が羨ましい。最近近くに熟年大学を発見した。六十才からならOK、二年制大学だそう。早速足を運んでみようと思ふ。



学長 榊 達雄

卒業おめでとうございます。

皆さんは、名古屋芸術大学において、芸術に関する専門の学術技芸とともに、歴史・社会に位置づけべき総合的教養を身につけるよう努めてきたものと存じます。在学中に学んだ「学問」、切磋琢磨した友人は、皆さんの財産であり、今後とも大切にされることを望みます。

現在はグローバル社会といわれ、世界のどこかの出来事も瞬く間に世界中に伝えられます。例えば、アメリカのサブプライムローン問題は、短期間のうちに世界に伝わり、それぞれの国に影響を及ぼしています。アフガン戦争、イラク戦争もしかりです。国内でも直接関係がないように見える問題が、国民全体に影響を与える時代になっています。例えば、高齢者医療問題は高齢者以外は関係がないかといえそうではなく、その問題は医療制度全体につながっており、国民全体の医療の在り方に関係しています。皆さんは、こうした問題から目をそらさず、自分自身の頭でどうあったらよいかを考えるようにして下さい。人格の完成は、生涯を通じて追求すべきものです。皆さんが大学で学んだことをしっかりと踏まえ、そして生涯学び続ける姿勢をもって自らを磨くとともに、社会の進歩、人類の進歩への一翼を担うよう期待します。

名古屋芸術大学は、音楽・美術・デザイン・人間発達の4学部を擁する芸術系の総合大学として、芸術活動・教育活動において、地域と提携し、アジア、ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカの諸大学と国際交流をしており、地域に根ざすとともに、全国に、世界に開かれた大学であることに努めています。皆さんは、卒業後も母校がどのように発展していくかに関心を持ち、見守っていただければ幸いです。

# 名古屋芸術大学近況報告

## 音楽学部

### 《演奏学科》

#### 声楽コース

声楽コースの主な事業として毎年「歌曲の夕べ」とオペラ公演がある。「歌曲の夕べ」は今回で第6回目となり、オペラ公演は30回を迎えた。今年度の「歌曲の夕べ」は2008年2月8日に名古屋の電気文化会館で行なった。この演奏会は鮫島有美子教授の日本歌曲研究および青山優子教授の外国歌曲研究(ドイツリート)、そして新田紀典講師による朗読法の各研究授業からなる成果の研究発表会である。6回目となった今回、学生たちからは今までにない熱い意気込みが感じられた。それは学生たちが、日頃の学内での研究から社会での初めての成果発表に対する意識の向上が強くなってきたことに他ならない。今年は観客の数も増えて満席に近い状態であった。学生の演奏に温かい拍手が送られていた。

もう一つは、毎年大変好評を博しているオペラ公演である。昨年より国際交流公演と銘を打って、姉妹提携校であるイタリアのフェラー音楽院の学生を招いて公演を行なっている。外国の大学の学生との交流公演を行なっている大学は全国でもまだそう多くない。中部地区では本学の声楽コースだけである。この交流は学生に大変教育的効果を上げている。まず、世界の学生と一緒に勉強することにより国際感覚を身に付ける良い機会を持った事である。これだけでも歌唱力の向上に大きく繋がった。昨年は「カルメン」を名古屋と豊田での2回公演であった。今年は、3月14日に名古屋でブッチェーニの名作の一つ喜劇オペラ「ジャンニ・スキッキ」を上演した。主役はフェラー音楽院から来た、バリトンのマルコブッシ君(24歳)がつとめた。他声楽コース4年生全員と1名の卒業生、また合唱には1年から3年生まで全員一丸となってこの難しいオペラに取り組んだ。公演は大盛況で観客の惜しめない拍手が長く続いた。指揮は本学教授古谷誠一、演出は客員教授のダリオ・ポニッスィ、総監督は声楽コース教授の澤脇達晴であった。来年度も姉妹提携校の学生との交流公演を計画している。

#### ピアノコース

9月に姉妹校提携先であるポーランドのヴィドゴシチ音楽大学へ学生が研修旅行に出かけ、大変有意

義であったと報告されている。また、11月にはエヴァ・ポブウォッカ氏、ケヴィン・ケナー氏の公開講座と「ピアノの夕べ」、さらに2月には名古屋・栄のハワイ楽器にて1年生から3年生の演奏会を、4年生は「春のコンサート」を開催した。同じく2月にはザルツブルグ大学モーツァルティウムの2人の先生によるレッスンと公開講座を実施するなど、たくさんの勉強の機会と舞台経験に恵まれた。

最近ではコンクールに挑戦する学生も多く、2年生の谷田部響君が日本演奏家コンクールで第1位になり、他に3名の学生が国際コンクール入賞で表彰を受けた。

#### 電子楽器コース

2007年9月、電子楽器コースは財団法人ヤマハ音楽振興会とタイアップ、ユニークで画期的な模擬グレードという制度を導入。学内にいながら実際のグレード試験官によるグレードの模擬試験を行い、学生に貴重なデータと機会の提供が可能に。同11月、ローランド社会長の欠橋氏が、世界的な電子オルガン奏者ヘクター・オリヴェラ氏と来学、講座と感動的な演奏会を行った。翌年2月、超人気フュージョン・ユニットTRIXも来校。講堂でライブを行い、おおいに盛り上がった。

#### 弦管打バンドディレクターコース

昨年7月に「WASBE」にウィンドオーケストラが参加し、海外で活躍したのはすでに報告されていますが、10月にオランダから客員教授として来日されたベンジオン・シャミール先生を交えての教員コンサートでは、密度の高い演奏会になり感激した。

また、今年で3回目になるが、3月26・27・28日とオーケストラワークショップが計画され指揮に古谷先生・客員教授後藤龍伸先生の指揮のもとに、弦管打コース教員、卒業生、学生、学外からの応募の160名を加え、さらに海外からのゲスト奏者を加えて総勢200名を超える大オーケストラの講習会が開かれる。今年は、シュトゥットガルト六重奏団の方々と、2年前にお願いした時には、すばらしい六重奏の演奏に参加者全員が深い感銘を受けた。年ごとに参加者が増え、3号館ホール舞台にいっぱいの奏者がシュトゥットガルト六重奏団の方々といっしょに奏でる演奏に全員の熱気が聴く人々にも伝わり、オーケストラの楽しさに包まれる。また今年3月には、名古屋芸大アンサンブル研究所のあと押しで、OBオーケストラが結成され、第1回の練習が始まる。卒業生の皆様もぜひ参加したり、応援をお願

い致します。今後も様々な企画を計画したいと思っています。

演奏学科長 古谷誠一

## 《音楽文化創造学科》

- ◎9月に、サウンド・メディア、音楽療法、音楽総合選択コース1年生の合同合宿を、山梨県にて行いました。
- ◎12月20日(木)にしらかわホールにて、5回目となる音楽企画「ルネッサンス21～時と旅～」を開催いたしました。企画運営を音楽ステージマネジメント、演出を音楽療法、作曲・PAをサウンド・メディアの学生たちが担当し、一丸となって活気のあるイベントを創り上げることができました。
- ◎3月4日(火)名古屋市千種文化小劇場にて、映像とサウンドの有機的結合をめざしたイベント「カレイドスコープ～光と影」を、サウンド・メディア、音楽療法コース、デザイン学部学生が中心となって制作しました。
- ◎サウンド・メディアコースでは、9月13日(土)、14日(日)に、東京メディア研修合宿を実施しました。東京の放送局、レコーディングスタジオを訪問し、番組制作、録音原盤制作の現場を肌で感じ、メディアの仕事についての理解を深めることができました。また12月には、「第7回飛騨国際メルヘンアニメ映像祭」で上映された「クレイ輪ニメーション」の楽曲、効果音制作を学生15人が担当しました。この作品は、12月16日(日)、飛騨芸術堂にて上映されました。1月20日(日) 13:00～16:00 2号館スタジオにて、NHK 放送技術局 コンテンツ技術センター チーフ・エンジニア 深田 晃 先生を招き、「サラウンド制作の手法について」の特別授業を行いました。レコーディング、PAを研究する3、4年の学生が、受講しました。
- ◎ジャズポップスコースの学生は、昨年9号館に完成した、練習室、セッションルーム、レッスン室をフルに活用し、練習に励んでいます。その成果は確実にあがっており、毎月の実施されている学生主体のロビーコンサート、著名なプレイヤーとのセッション等で、その演奏レベルは、学内はもとより、学外でも高い評価を得るようになってきています。最近では学外での依頼演奏も増え、また他の分野のアーティストとのコラボレーションなど、その活動範囲は年々広がってきています。
- ◎ミュージカル選択コースは、昨年5月に、韓国テグ市で行われたテグ国際ミュージックフェスティバルに参加し、銅賞に輝きました。また8月には24時間テレビ"花フェスタ"に参加し好評を得るこ

ともできました。その他、東海3県を中心に、各地で公演し好評を博しています。

現在、3月の卒業公演にむけて、連日激しい稽古を続けているところです。

- ◎音楽ビジネス・ステージマネジメント選択コースでは、2007年度は昨年度の継続企画を中心に、学内外での実践教育を実施して参りました。新人発掘企画として「First Quarter(Vo.Gt.Bs.Kb.Drs)」のデビューコンサートを開催しました。また同バンドのCD(「over」 NUAレーベル ¥1000)制作と発売までの作業も行いました。また、地域密着型企画として「小松孝文と斉木直子の"クラリネットdeおしやべり"」を名古屋港開港100周年記念、名古屋芸大発! 港ライブコンサートとして8月から12月まで毎月1回開催しました。その他に、依頼企画としてネーミングからプログラミングまでを考案したコンサートが7月に宗次ホールにて行われました。
- ◎音楽教育選択コースでは、昨年1年間にさまざまな活動を行いました。9月には兵庫県粟粟市の小学校で恒例の音楽会を開催しました。雅楽の調べやハンドベルの演奏に子供たちは大変興味を示し、会場はとても盛り上がりました。また、岐阜県可児市で開催された「花フェスタ記念公演」ではハンドベル演奏を、堀川浄化運動の一環として行われた「堀川ウォーターマジックフェスティバル」では雅楽演奏を実施しました。一方、今年2月には、初めての試みとして「音教ゼミ研修旅行」に出掛けました。「唱歌の歴史を知る」という目的で、島崎藤村の唱歌《椰子の実》の故郷である渥美半島の伊良湖岬を訪れたのですが、この研修により学生たちの唱歌に対する認識が深まったように思われました。詳細は、音楽教育ホームページ(<http://nua-me.com/index.html>)をご覧ください。
- ◎音楽療法選択コースでは、引き続き地域の障害児・者、高齢者施設にて音楽療法の実践を行っています。11月には天華二胡学園の発表会で二胡の演奏とハンドベルの演奏と合唱で共演し、好評を得ることができました。また、1月に日本音楽療法学会認定音楽療法士(補)の試験が行われ、受験した4年学生全員が合格するという快挙を成し遂げました。また、3月20日(木)には、学内音楽療法に参加して頂いている対象者との発表会を学生と卒業生が協力して行う予定です。

音楽文化創造学科長 田中範康

## 美術学部



### 東山荘アートプロジェクト2008 記憶の庭で遊ぶ展

今から80数年前に建てられた、名古屋市東山荘の和室と庭園や雑木林を舞台にして、この会場の特徴を生かした3つのイベントを開催しました。

これは2008年から美術学部が旧3学科を統合して一つの学科「美術学科」を開設するのを記念して、東山荘アートプロジェクト2008<記憶の庭で遊ぶ>展の展覧会を含むイベントとして企画し、美術学部全体の在学生・教員・卒業生に、作品の出品イベントの参加を募集しました。応募者全員が会場を下見した上でプランを提出し、名古屋市史上で貴重な文化財であるこの場所の特徴を生かした作品展を開催しました。

会期は2008年2月9日から17日までで、彫刻・立体造形・陶芸・ガラス・版画・絵画・インスタレーションなど、23点のアート作品と2つのアートイベントを開催しました。(入場者約210人)

その一つは、会期中の2月11日に、元山口県宇部市学芸員であった藤井 匡氏を招いて、山口県を中心に西日本のパブリックアート、野外彫刻展の作品やその準備の様子を報告していただきました。

今回展示中の作品についても予め観ていただいて、各学生に講評をしてもらいました。(参加者約50人)

二つは、東山荘内の「仰西庵」という茶室を使っ

て、創作茶会を開催しました。今、徐々に日本国内に広がりつつある、中国茶の中の「工芸茶」を木の実やドライフルーツのお茶請けで行いました。(参加者38名・会費300円)

この3つのイベントの実施で印象に残ったことのひとつめは、この時期が厳しい寒さの天候に見舞われ、入場者数は少なかったですが、初日は4～5cmの雪が積もり、美しい日本の風景に立ち会うことが出来ました。

2つめは、出品者の半数、8名の絵画系の出品者の殆んどは絵画をモチーフにした立体作品を展示したことです。この会場の色々な場所が絵とか彫刻とかの境を自然に取り払ったのではないかと思います。

3つめは、日本の80年前の日本式の建築と庭園の施設に、まだ20才前後の若い学生が興味を示し、何らかのインスピレーションを抱いたことです。直接には体験していない日本的な景色や生活の場に立会い、彼らの潜在文化を刺激したのではないかとと思っています。

4つめは、このイベントには報道機関取材はありませんでしたが、8日間の厳寒の中、200人を越える方々に来場を得ました。これは私共の自前の力量なのだと少し自信を持ちました。

今後も若い世代の、町の中でのアートプロジェクトをよろしく願います。

造形科 教授 庄司 達

## デザイン学部

デザイン学部では、毎年1年次には共通した基礎的な実技教育が行われ、2・3年次ではそれぞれの専門コース、ブロックに分かれた授業が行われます。そして4年次には専門的な通常授業と共に、卒業制作展に向けて、4年間の集大成ともいべき卒業制作に取り組みます。

今年度は、前期4月9日～7月30日、後期9月21日～1月28日と通常授業が行われました。

学生は、4月に履修科目を登録し、それぞれがどの授業を採るかを決めて講義を受けます。

前期においては、通常の授業と平行して、あるいは通常授業の中で、現在社会の第一線で活躍するデザイナー等を招聘して、展覧会、ワークショップ、講演会(トークショウ)が開催されます。これらはすべて、各コース個々の学生がその知的、感覚的にもっと身近で高度な専門的な分野を目の当たりにし、体験する機会となるものです。

今年度前期は、プロダクトデザインにおいては、特別客員教授としてカーデザイナー、工業デザイナーとして国際的に知られる奥山清行氏のワークショップ(車のレンダリングの直接指導)を行いました。また、テキスタイルデザインコースを中心に「トレンドではなく、つねに自分たちがはきたい靴下を作ってきた」という著名な靴下デザイナー・アンティパストのカトウキョウコ・ジヌシジュンコ両氏をやはり特別客員教授としてお招きし、学生達の積極的な参加のもとに講演とワークショップが行われました。

また、講義科目「広告表現論」の授業の中では、カメラマンの中道順詩氏、クリエイティブディレクターの宮田識氏、イラストレーターの下谷仁助氏の特別講演とそれぞれの専門コースでのワークショップが開催されました。同じく「デザインと文化」においても地場伝統産業、ファッションデザイン、ジュエリーデザイン、商店建築などの第一線で活躍する専門家・デザイナーを学外から招聘し、デザインを



展覧会

より広く文化的に捕らえられるようにするための講義が行われています。これらの催しの多くで学生と各講師との懇談が実現しており、学ぶ者にとっては贅沢な機会であるといえましょう。

他にも、全国のプロダクトデザイン系の学生を中心とした「金の卵展」が8月末～9月初旬に行われましたが、企業と学生をつなぐこの貴重な機会に、本学学生は全国16校から選抜された作品展に参加するなど、優秀な成績を修めました。9月にはヴィジュアルデザインコースの学生の多くが、絶滅動物に目を向けた環境問題のキャンペーンである「SAVE ME」に参加するなど社会に向けた情報発信を続けています。

後期に入り、10月3日から20日まで奥山清行氏の展覧会、3日には同氏のトークショウが行われ、300人以上の学内外の専門家、ファン、学生が参加した一大イベントがもたれました。

前期終了時からスタートした4年生の卒業制作は、4年間のすべての成果がそこに結実されるべき制作です。12月の後半には学内各所で各コース一斉に第1次審査が行われました。

年が明け、ヴィジュアルデザインコースでは、「ナ



公開講義



ガーデンパーティー

ゴヤ」というテーマで名古屋市内のギャラリーで展覧会がもたれ、学内では2007年度のJAGDA 新人賞展とトークショウが行われました。

また1月17日から1～3年の学生によるレビュー展が学内で行なわれました。この展覧会は、学生が1年間取り組んだ課題作品を中心に、すべての制作物を各人に与えられたスペースに展示する場であり、作品を観、講評しながら学生と教員が話し合う貴重な機会でもあります。1月19、20日には一般公開もされ、学生にとって自分の作品を公表する好機でもあります。

今年のデザイン学部の活動は、新しい時代に対応

したカリキュラムの改変と、現在デザイン学科にある8コース(ヴィジュアルデザイン、イラストレーション、メディアデザイン、プロダクトデザイン、スペースデザイン、メタル&ジュエリーデザイン、テキスタイルデザイン、ライフスタイルデザイン)に加え、来年度の2年生から選択可能となるメディア・コミュニケーションコース・セラミックデザインコースという新たな2コースを開設するための指導体制を整えることでした。すでに担当する教授陣も決まり、そのコースを専攻する学生も前述のレビュー展を通じて決まり、4月に新たな授業の開講を待つばかりとなりました。

デザイン学科 教授 溝口和夫

## 人間発達学部

人間発達学部が開設されて、1年がたちました。本学部と同様の保育者・教育者養成を目指す大学の増加にもかかわらず、来年度に向けての学生募集は現在のところ順調に進んでいます。

今年度は、「教育力があり」かつ「オンリーワンのスキルを持つ(これだけは自信が持てる)」学生を育てるために、通常の授業の他に、見学会、セミナー、講座等の開催を計画・実施しました。ここでは、後期に実施したものの、ならびに計画している事業についてご紹介します。

### 文化創造セミナー

2007年12月8日に東キャンパス音楽講堂で開催された「日本の未来とものづくり—子どもたちとの造形活動とあわせて—」は、本学美術学部デザイン科の卒業生である伊藤美輝先生(現在、山梨学院短期大学保育科教授)を講師にお迎えして行われました。まず実践の様子を交えながら子どもの造形活動の指導理論を講演していただいたあと、「かざぐるま」の製作にとりかかりました。

実はセミナーの前に、伊藤先生から「かざぐるまが回るために必要な条件を考えておく」という課題が出ていました。それは、「物事の道理」を押さえておけば、それを手掛かりにして色々なものを作り出す工夫ができる、ということだったのです。先生の指示通りに作業をして作品を作るのだと思っていた学生たちは、少し戸惑いましたが、先生が作られた不思議な回り方をする「かざぐるま」に触発され、次々と「オンリーワンのかざぐるま」を製作し、その回り方の不思議さに感動していました。

学外からも多数の参加者があり、本学部から地域への文化の発信にも貢献できました。

### 就職対策学習会

3月に、「基礎学力フォローアップ講座」を行う予定です。春休み中の開催ではありますが、1年生全員を対象として実施します。就職試験に向けて継続的に学習を進められるよう、全教員による支援体制で臨みます。

子ども発達学科 教授 加藤純子



## 学生部からのメッセージ

学生部長 竹本義明

学生部では、授業や学生生活について、日頃から学生の良好な修学環境の維持に努めており、その内容を春と秋の後援会において保護者の皆様にご報告しています。今年も、後援会定期総会終了後、初めて学部ごとの教育懇談会を設け、キャンパス見学会も行い概ねご好評をいただいたところです。総会では、保護者の方々から事前にいただいたご意見に回答し、教育懇談会では教務・学生生活、そして進路・就職について、活発な質疑応答が行われました。

総会への保護者の方の出席は年ごとに増え、保護者の皆様にとって関心のある事項について、大学が頻繁に情報を発信する必要性を改めて感じています。今年も、年間30週の授業実施により相当窮屈な授業展開を強いられる中、休講に対する補講の完全実施の徹底、窓口対応のクレームへの対応、そして教員免許状や資格取得のための実習費徴収等について説明をいたしました。

学生相談室への相談件数は増加傾向にあり、特に他大学と比較し精神衛生に関する部分で増加してい

ます。また、各種ハラスメントへの大学としての対応について、規程に基づいて処理が行われることの説明をしました。今後とも学生相談室の充実を図るとともに、教職員の学生に対する適切な指導とサポートに努力して行きたいと考えています。

成績や就職の問題について、最近では学生と保護者の意思の疎通が弱くなっている印象を持っています。様々な原因が考えられますが、学生が以前のように大学入学時において明確な将来への展望が描けない事がその背景にあると思われます。大学を取り巻く様々な諸問題の解決は、大学に関わる学生、保護者そして教職員の三者の関係を新たに構築する事により改善がされるのではないかと考えています。

今後とも大学として保護者の皆様との連携を深め、きめ細かい対応を実施し、諸問題の改善に努める所存でございます。これからも本学のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 大学へのお問合せ先一覧

| 内 容                                                                                               | 担当部署                  | 電話番号                                        |                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 学納金(学費)について                                                                                       | 庶務会計課                 | 東キャンパス<br>(音楽学部・人間発達学部)<br>0568-24-0315 (代) |                                             |
| 休学・退学について<br>成績について<br>証明書発行について<br>課外活動・大学祭等について<br>教員免許・学芸員資格について<br>住所変更等について<br>その他学生生活全般について | 教務学生課                 |                                             |                                             |
| 就職について<br>資格取得講座について<br>アルバイトについて                                                                 | 就職課                   |                                             | 西キャンパス<br>(美術学部・デザイン学部)<br>0568-24-0325 (代) |
| 本学入試に関する事<br>本学大学院進学について<br>本学研究生・研修生について                                                         | 広報入試課                 |                                             |                                             |
| 交換留学について                                                                                          | 国際交流センター(芸術文化交流室)     |                                             |                                             |
| 生涯学習講座について                                                                                        | 生涯学習センター(芸術文化交流室)     |                                             |                                             |
| 音楽学部主催の演奏会等について                                                                                   | 演奏課                   |                                             | 東キャンパス<br>0568-24-5141 (直通)                 |
| 美術学部・デザイン学部の主催する<br>展覧会について                                                                       | 芸術文化交流室               | 西キャンパス<br>0568-24-0325 (代)                  |                                             |
| アート&デザインセンターについて                                                                                  | アート&デザインセンター(芸術文化交流室) | 西キャンパス<br>0568-24-0325 (代)                  |                                             |
| 後援会について                                                                                           | 芸術文化交流室               |                                             |                                             |

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、以上の理由から、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

学生相談室からのメッセージ

# 青年期は変わったか

 人間発達学部教授  
 学生相談室長 佐藤勝利

初めまして。昨年4月に人間発達学部に着任いたしました佐藤勝利でございます。たまたま専攻が臨床心理学でありましたので、早々に学生相談室長の役が回りました。これまでの経緯も十分には分からないのですが、大先輩の後藤教授(前学生相談室長)と4名の相談員(臨床心理士)の皆さんにお教えいただきながら、何とか勤めさせていただいております。

学生相談室には、様々な問題が持ち込まれますが、ここでは、日頃感じておりますことの中から、青年期に関わる若干のお話をさせていただこうと思います。

## 分かりづらい青年期

今時の青年たちを見てみると気になることが沢山あります。例えば、同世代の他者の目を必要以上に気にするのに、電車に乗れば若い女性が平気で化粧を始めます。先生にも敬意を払いませんし、授業中でも私語が絶えません。親をも『あいつ』呼ばわりをしますし、一方で、いつまでも親に依存しています。そしてさらには、「公」と「私」、「目上」と「目下」、「大人」と「子ども」、「仕事」と「遊び」等々、本来あるべき境界が無くなってしまっているように見えるのです。

「我が青春期の若者たちは今や大変な贅沢を好むかに見える。かれらはいかにも不法法にふるまうし、権威を侮辱する。大人など全く尊敬していないことを示せばからないし、お互いにゴシップを流しあいつつ、時間を無駄に過ごしている。彼らは親を否定しがちであり、仲間との会話で独占的になり、めっちゃ食いをするかと思えば、先生にすら圧制をふるうありさまだ。」

この言葉は、まことに今の若者のことをいっているようではありませんか。しかし、これは2,500年以上も昔のソクラテスの言葉なのです。いつの世も、大人にとっては、青年期は分かりづらい、手に負えないものなのです。

## 青年期は変わったか

それでは、青年期は変わったのでしょうか。それとも本質的には何も変わってはいないのでしょうか。

かつては、青年期は「疾風怒濤」の時代であるといわれました。「自分探し」に伴って、嵐のような感情の波とストレスとが極端なかたちで現れる時であったのでしょう。独立と依存の欲求の間の葛藤や、忍び寄る性的な欲求とその制御の狭間で、青年たちは激しく揺れ動いたのです。

その後、アメリカを中心に『青年期平穏説』が唱えられました。その主張は、幼児期からほとんどの欲求が満たされ、保護されて育った近年の青年たちには、もはや『疾風怒濤』のような激しい感情反応やストレスにさいなまれる者はなくなった、青年期は波風の立たない安定した時期なのだということでした。

しかしながら、学生相談や臨床の場で見ると、現代の青年期が『平穏な時代』であるとは思えません。具体の事例はプライバシーに触れますので割愛しますが、まじめで熱心に勉学に取り組もうとする子が、内面では親からの自立に苦悩していたり、どうしても勉学に打ち込めないで遊びほうけているかに見える子が、内面では「自分探し」のために悪戦苦闘していたりするのです。彼らは、表だって激しい波風が立っているようには見えなくても、内面では『疾風怒濤』の感情生活を送っているのです。まさしく、「静かに見える淵」は意外と「深い」といえるのでしょうか。

## 青年が大人になるとき

それでは、現代の青年たちはいつになったら大人になるのでしょうか。

元名古屋大学教授 笠原 嘉(精神医学)は、かつて「20歳で大人になったのは人生50年の時代、人生70年の時代になった今では、大人になる年齢も70/50を掛けて換算する必要がある」と述べています。平均寿命が著しく延びた現代なら、80/50を掛けてもよいかもしれません。つまり現代では、青年が大人になるのは30歳~32、33歳頃だと考えた方が無難なのかもしれないのです。

学生諸君は、まさしく青年期の(自分探しの)真っ直中にいるのです。悠長に聞こえるかもしれませんが、今しばらくは温かく見守ってあげてください。

東キャンパス電話 0568-24-0322 (ダイヤルイン 内線529)  
 携帯 090-5036-5178 (開室時間内のみ通話できます)

西キャンパス電話 0568-24-0350 (ダイヤルイン 内線313)  
 携帯 090-6474-9815 (開室時間内のみ通話できます)

予約優先メール soudan@nua.ac.jp (予約のみ。メール相談は行いません)

## 皆さん、受賞おめでとうございます!

2007年度の本学在学生(学部学生及び大学院生)の展覧会や各種コンクールにおける受賞結果をお知らせします。本人又は担当の教員を通じて報告のあったものだけをまとめています。下記以外にも受賞された方がおられると思いますので、芸術文化交流室まで情報をお寄せください。

### 音楽学部

| コンクール名                               | 受賞名              | 受賞者氏名・所属                                          | 主催団体・会社名             | 開催月 |
|--------------------------------------|------------------|---------------------------------------------------|----------------------|-----|
| 第13回三重音楽コンクール<br>声楽部門                | 第2位              | 大学院音楽研究科<br>2年 倉本亜紗                               | みえ音楽コンクール<br>運営委員会   | 10月 |
| 第13回三重音楽コンクール<br>声楽部門                | 第2位              | 大学院音楽研究科<br>2年 稲葉梨恵                               | みえ音楽コンクール<br>運営委員会   | 10月 |
| 第61回全日本学生音楽コンクール<br>名古屋大会 声楽 大学・一般の部 | 第3位              | 大学院音楽研究科<br>2年 稲葉梨恵                               | 毎日新聞社                | 12月 |
| 第8回大阪国際音楽コンクール<br>ピアノデュオ部門           | 第3位              | 演奏学科ピアノ選択コース<br>3年 山田愛子、福田真美                      | 大阪交際音楽<br>コンクール実行委員会 | 10月 |
| 第8回大阪国際音楽コンクール<br>大学生部門              | エスポワール賞<br>(第4位) | 演奏学科ピアノ選択コース<br>1年 山本多恵佳                          | 大阪交際音楽<br>コンクール実行委員会 | 10月 |
| 第9回日本演奏家コンクール<br>大学生部門               | 第1位              | 演奏学科ピアノ選択コース<br>2年 谷田部 響                          | 日本演奏家協会              | 8月  |
| 第9回日本演奏家コンクール<br>一般の部                | 第3位              | 大学院音楽研究科<br>2年 上休場恵水                              | 日本演奏家協会              | 8月  |
| 第9回日本演奏家コンクール<br>一般の部                | 特別賞              | 大学院音楽研究科<br>2年 藤島沙里                               | 日本演奏家協会              | 8月  |
| 第1回横浜国際音楽コンクール<br>大学生部門              | 第3位              | 演奏学科ピアノ選択コース<br>1年 山本多恵佳                          | 横浜国際音楽<br>コンクール実行委員会 | 10月 |
| 第1回横浜国際音楽コンクール<br>一般の部               | 第3位              | 大学院音楽研究科<br>2年 藤島沙里                               | 横浜国際音楽<br>コンクール実行委員会 | 10月 |
| 第24回日本ピアノ教育連盟ピアノ<br>オーディション 東海地区     | 奨励賞              | 演奏学科ピアノ選択コース<br>2年 金田夏輝、<br>浅野紋加、古川友理、<br>3年 伊禮 翼 | (財)日本ピアノ教育<br>連盟     |     |
| 第1回ベートン音楽コンクール<br>中部地区               | 奨励賞              | 演奏学科ピアノ選択コース<br>2年 寺嶋裕香                           | ベートンピアノ協会            | 10月 |



▲第8回大阪国際音楽コンクール ピアノデュオ部門  
山田愛子さん(左)、福田真美さん(右)



▲第9回日本演奏家コンクール 大学生部門  
若田部響さん

宮田耕作さんの作品▶  
「寝相」



## 美術学部

| コンクール名                     | 受賞名            | 受賞者氏名・所属                                                                      | 主催団体・会社名          | 開催月         |
|----------------------------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-------------|
| 第59回三軌会                    | 入選             | 絵画科洋画コース<br>4年 山形幸子                                                           | 三軌会               | 5月          |
| 第2回翔け二十歳の記憶展               | CBC賞           | 絵画科洋画コース<br>4年 馬見塚喜康                                                          | 中部日本放送 CBCク<br>ラブ | 10-<br>11月  |
| 第7回福知山市<br>佐藤太清賞公募美術展 絵画の部 | 佐藤太清賞          | 絵画科洋画コース<br>2年 高瀬悠梨                                                           | 佐藤太清賞公募美術展<br>事務局 | 12月         |
| 第39回日展                     | 入選             | 絵画科日本画コース<br>4年 片桐裕美、中神美帆<br>大学院美術研究科<br>2年 長谷川基子、能島絵美<br>井上あゆみ、福本百恵、<br>宮田耕作 | (社)日展             | 11月         |
| 第3回飾り瓦コンクール                | 現代陶芸部門<br>最優秀賞 | 大学院美術研究科<br>1年 サレー・マハマッド・<br>リザール                                             | 飾り瓦コンクール<br>実行委員会 | 2008年<br>2月 |
|                            | 中日新聞社賞         | 大学院美術研究科<br>1年 アリヤシン・シティ                                                      |                   |             |

## デザイン学部

| コンクール名          | 受賞名 | 受賞者氏名・所属                | 主催団体・会社名 | 開催月 |
|-----------------|-----|-------------------------|----------|-----|
| 第14回美濃和紙あかりアート展 | 入選  | テキスタイルデザインコース<br>2年小川梨紗 | 美濃市観光協会  | 10月 |



▲中神美帆さんの作品  
「identity」



▲長谷川基子さんの作品  
「sanctuary」



# 私 が 就職内定 を もらうまで

## 私が就職内定をもらうまで

デザイン学部 デザイン学科  
スペースデザイン選択コース  
4年 三浦志穂

私は3年生の11月に初めて企業の説明会に参加してみました。そしていきなり渡されたものは自己PRの用紙でした。様子見のつもりで行ったので何も準備していなかった私はとても焦りました。

自己PRの書き方は帰ってからすぐ就活サイトなどで学び、志望動機は説明会の前に予め考えて行くようにしました。私はエントリーするたびにその企業のホームページを印刷してファイルに分けていたので、忙しい課題と並行して志望動機を考えるとときや面接に行く時、そのファイルを取り出すだけで良いので時間が節約できたと思います。

就職活動を続けているとどうしても気分が塞いだり、不安な気持ちになりますが、そんなときは1次選考や2次選考を通ったときのメールや手紙を見て、自分はここまで認められているのだと鼓舞していました。また、友だちが先生から聞いたと言う

「20社落ちるまでは泣くな」という言葉を思い出してまだ頑張れる、まだ泣ける立場ではない、と言いつけて聞かせていました。

そんな私は4月に第一志望の企業から内定をいただくことができました。今思えばこの企業は他と違い、自分が働いている姿がはっきりと想像できました。いろんな企業を見ていると、自分に合う、合わないが何となく肌でわかるようになりましたが、この企業は雰囲気自分と合っていると感じたのです。そしてエントリーシートを書く段階から意気込みが違いました。その意気込みが面接にも繋がり、内定へと至ったように思います。

就職活動を通して自分を知ることは大変でしたが、私と言う人間の長所、短所、特徴を長い付き合いの友人や家族が言ってくれて大変助かりました。就職活動とは今まで生きてきた自分がどういう人間で、これからどう生きたいかを真剣に考える期間だと思います。だからこそ大変で苦しいですが、乗り越えてみるととても大切な期間だったように思います。

(株式会社 大塚家具 内定)

## 私が就職内定をもらうまで

美術学部 絵画科  
日本画コース  
4年 眞子佳子

今春4月から、中学校の美術科教員として社会人になります！私は、幼い頃からずっと教師に憧れてきました。教員採用試験は難しく現役ではなかなか合格できないと聞いていたので、1次2次とも合格通知が来たときはびっくりしましたがとても嬉しかったです。

確実に教師になるためには、試験の準備は早めにする方がいいと思い行動したのは2年の春からでした。何が試験に出てどの様に勉強すればいいのか全く分からず、始めは手探り状態でした。そんな時に教務で「就職支援・資格取得」の冊子を見つけ、教員採用試験対策講座を見つけすぐさま受講しました。他にも小学校免許取得試験の講座もあり、どちらもきめ細かく指導して下さるので、試験を受ける方は是非受講されることをお勧めします。

受講したのがあまりにも早すぎるという事で、その後は時間が空いたときに少しずつ広く浅く勉強しました。というわけで、本格的に勉強し始めたのは4年の教育実習が終わった6月下旬でした。毎日、平均5時間勉強し、時間の取れる日は8時間勉強しました。勉強は決して楽ではなく、間近に迫った将来に何度も不安になったり、どんどん決まていく友達の内定に他に私にあった道があるんじゃないかと焦ったり、とにかく自分との戦いでした。

しかし最後に残ったのは、教師になりたいという強い気持ちでした。私立校の非常勤勤務を探したり、とても忙しい夏でしたが合格出来て本当に嬉しいです。

私が合格したのはきっと、私の悩みを辛抱強く聞いてくれ励ましてくれた周りの友達と、なにより学校で受けた講座のおかげだと思います。色々な人に感謝で一杯です。4月からは元気一杯美術の楽しさを伝えられる教師になれる様に沢山勉強し頑張りたいと思います。皆さんありがとうございました。

(愛知県中学校美術科教員)

## 私が就職内定をもらうまで

音楽文化応用学科  
サウンド・メディア選択コース  
4年 天野将尚



私が就職のことを考えたのは2年生の春でした。少し早い時期だったかもしれませんが、それまで就職に対する願望があまりにも漠

然としたものであり、音楽関係の仕事に就くことができればい程度にしか考えていなかったため、「何ができますか？」と聞かれたら「何もできません！」と答える事しかできない自分に焦りだしたのだと思います。元々 DAW 自体は好きだったのでそれに関連した仕事に就ければと、毎日パソコンに悪戦苦闘しながら挑んでいました。朝から晩まで作業をしていたため、大袈裟かもしれませんが毎日が就職活動のようなものだったと思います。

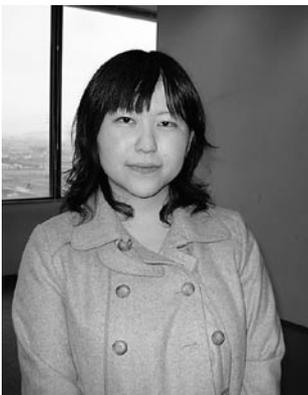
そして月日は流れ、いよいよ就職活動が始まる3年生の冬がやってきました。当初は自分の技術職への才能に限界を感じており、一般企業の採用試験を主に受けていました。しかし、その最中でも技術職

への願望が消えることはなく、むしろ強く大きくなりました。そしてどうしても音を扱う仕事がしたいと考えるようになった私は、受験中の企業2社の採用試験を辞退して、音楽関係の企業だけに絞るという決断をしたのです。辞退によって余裕ができた時間は、もう必死で音楽的な技術を向上させることに費やしました。その一方で音楽関連の仕事を探っていた私は、音楽業界よりCMなどを制作する映像制作会社のMAという仕事に着目しました。DAWに力を注いできた私は「これだ！」と感じ、さっそく数社にエントリーして採用試験を受けました。一般常識やSPIの試験はとて苦勞しましたが、実技試験で在学中に取り組んできたDAWの成果が現れ、本命だった地元名古屋の映像制作会社より6月に採用内定を頂きました。

技術職が本当は大変なのは就職してからだと思います。私自身もまだ入社前なので本当のつらさまではわかりませんが、定時に帰ることは不可能です。忙しい時期は家に帰ることすらできません！採用試験中も会社側の方々が「大変な仕事だけど続ける自信はあるか」「大学上がりはすぐ辞めていく」といった感じで脅されたりもしました。しかし、私の技術職への意欲が消え失せたわけではありません。逆に意地になって辞めるもんかと思うぐらいやる気のある方、一緒に頑張っていきましょう。

(株式会社キュー 内定)

## 「え?! こんな方法もあるんだ。」



器楽科  
弦管打選択コース  
4年 鈴木綾子

私が就職課の掲示板で、小学校教員免許認定試験の案内を見たのは2年生の冬だった。将来教師になりたいという思いは小

学生の時からあったような気がする。父も母も教員だった影響かもしれない。「大変だ。忙しい。」と言いつつも、毎日仕事に出ていく姿を見て、やりがいのある仕事なんだろうと思っていた。その一方で、音楽をもっと勉強したいという気持ちも大きく、大学での勉強も続けていた。

そんな時に前述の案内を見つけ、自分の進む方向が見えたと思った。ここから私の認定試験に向けての勉強が始まった。まずは学内で2年生の3月に行われた対策講座、ここで出題傾向を知りそれをもとに勉強していった。試験では、筆記だけでなく音楽や美術の実技もあった。特に美術は久しぶりに筆を持ち絵をかいたので、デッサンの方法を本で勉強するなど、大変だったものの楽しみながら受験することができた。

4年生の4月に入ると、今度は教員採用試験に向けての勉強を始めた。予備校に通い土日は講義を受け、平日は図書館や自習室で勉強していた。そんな中、迎えた採用試験では、特に理数科目の手応えが全くなく不安になったが、良い結果が出たので、やってきたことは必ず生きてくるんだと実感できた。

これから教師になり、児童とともに学び成長していきたいと思う。

(愛知県公立学校教員 小学校)

# 親の想い

## 娘の選択

美術学部 絵画科 洋画コース  
3年 母 荒川裕子

期待に胸を膨らませ、名古屋芸術大学美術学部の入学式に親子で参列してからもう3年がたとうとしています。小学校から高校まで女子校に通い、きつとそのままの流れで大学に進学をしていくのだろうと思っておりましたが、娘は意外な選択をしました。思い返せば、きっかけは3才年上の兄が通っていたお絵かき教室です。幼稚園のすぐ近くにあったお絵かき教室は、まるで子供たちの社交場のようで、絵を描きにいくというより、お友達と一緒に遊びに行く感覚だったと思います。そこで、素晴らしい先生に出会いました。とにかく子供たちのよいところを見つけては褒めてくれるのです。上手に絵が描けなくても、絵の具の出し方がすごいと言って下さったり、筆の洗いがうまいと手をたたいてくれるのです。おだてられる事が大好きな娘はとてうれしそうでした。引越をきっかけに小学校の高学年でお絵かき教室は辞める事になりましたが、絵を描くことがとても好きになった始まりです。

その後、中学・高校と進学をし、すっかり忘れていた絵との出会いがまたやってきたのは、高校1年生の時に選択をした美術の授業でした。当時は、まだ自分の進路について考えた事もなく、ただ、漠然と過ごしていた時に美術を教えて下さった先生は、娘の悩みに親身になってアドバイスを下さり、また、励ましの言葉をかけ、娘の進む道を決めるきっかけを与えて下さったのです。目指す目標が決まったとたん、あれほど頑張って打込む娘の姿を見たのは初めての事で、いつのまにか娘の目標は、親の目標となり、そして合格の通知を頂いたときは喜びで胸がいっぱいになった事をおぼえています。

いま、楽しそうに大学に通い、とても充実した生活を送っている娘を見るたびに、この学校で出会った先生方、先輩方、そして友達との出会いもまた、娘にとってかけがえのないものであったのでしょう。いままでお世話になった多くの方々に感謝の気持ちを忘れずに、これからも自分の進む道をしっかりと見据えながら選択していってくれることを楽しみに見守っていきたいと思います。

## 夢に向かってゴー

音楽学部 音楽文化創造学科 音楽療法コース  
3年 母 足立葉子

子供の頃より音楽が好きで、三歳よりピアノを習っていたと云う事もあり、将来これを生かせる職業に就きたいと音楽の先生を目指していた娘が、何故か高校三年生の秋、名古屋芸術大学の音楽療法コースに進学したいと言ってきた時はビックリ！ごく普通のサラリーマン家庭の我が家にしてみれば、決して安くない授業料に二度ビックリ！

しかし娘の為と思い入学を許可しましたが、音楽療法はまだまだ認知度も低く就職先も少ない事から、大変な道を選んだ事と心配しました。

月日がたつのは早いもので、名古屋芸術大学に入学してはや三年が過ぎようとしています。入学当初より四年間の目標を確実に決め、一年生でホームヘルパー二級と、ガイドヘルパーを取得。二～三年生では独学で保育士に挑戦。あと一息で合格出来そうなレベルにこぎ着けました。

音楽療法コースでは実習で色々な施設へ行き、お年寄りと接することで、誰にでも優しく接する事を学び、四年生になる今年は、六月の教育実習で、卒業した高校へ行く予定です。来年春には、東京で行われる音楽療法士の認定試験にも挑戦！本人の考えでは卒業後の目標は決まっているようですが、四年間で得た事をこれから社会で活かせるよう、前進して欲しいと思います。長い人生の中で、この大学で学ぶ時間はほんの少しですが、いろいろな可能性を求めて頑張ってもらいたいです。

そんな中、私自身は大学の後援会の委員のお話があったときは、大学にもPTAがあるなら学校の事が判るし、一年(一年と勝手に思い込んでいました)ならと軽い気持ちで引き受けて三年が経ちました。

今では学費を払うだけでは到底わかるはずの無いいろいろな行事に参加させていただき、今ではお声を掛けていただいた後援会の役員の方々に感謝しております。娘共々残りの一年、楽しい思い出を作りたいと思っています。

# 子の想い

## 卒業にあたって

音楽学部 器楽科 弦管打選択コース  
4年 加藤幸恵

私は今春卒業します。一年生の頃は長いと思っていた四年間も終わってみればあっという間で、少し寂しい気もします。小さい頃からやっていた音楽を大学まで続けられたのは、両親を始めとした周りの人たちのおかげで、とても幸せなことだと思っています。そして、大学生活の中で得たものはとても多いです。

授業、演奏会、学校外のイベント、演奏旅行。とてもたくさんの経験が出来ました。それだけでなく、学芸員の資格を取るにあたって、美術系の授業を受講したり、博物館実習に行ったことは、貴重な体験でした。学生の時間は、何でも自由にやることが出来ます。練習や勉強、遊びに行ったり、アルバイトもしました。確かに充実はしていました。

しかし、もっと頑張ればよかったとも思います。それを特に感じたのは、就職試験を受けたときです。私は就職するにあたって、音楽系のところへ行くのか、それ以外へ行くのか、とても悩みました。大学まで続けてきた音楽を仕事にしたい、というのはありましたが、独立して生活できる仕事は音楽系には少なく、そこに就職することが出来なかったからです。そして悩んだ結果、音楽系ではないところへ行くことにしました。自分に出来るのか不安ですが、とてもやりがいのある仕事だと思うので、ここで得たことを生かして頑張れたらいいと思います。



## 入学して感じること

人間発達学部 子ども発達学科  
1年 早川 力

4月、桜の香りのする季節に、初々しい感覚を抱きながらの大学の入学から戸惑いの残ったままもう桜の季節を迎え、僕たちが先輩になろうとしています。このことは自分でも驚いています。なぜなら、これほど早く1年が過ぎてしまうことは今までの経験になかったからです。それほど自分の中で大学が楽しく、そして面白く過ごせているということです。

これほど大学が楽しく過ごせていることは大学での環境が大きく関わっていると思います。

僕は今、フラワーショットテニスサークルに属しています。そこでは今まで自分を素直に出せなかった僕の欠点を見事に崩して、「自分自身」をありのままを出させてくれるところです。僕にとってそこはとても居心地がよいところです。また、入学した当初よりも友達も多くでき、毎日笑顔の絶えない日々を過ごせています。それは、とてもうれしことであり毎日が楽しく過ごせている証拠です。しかし、同時に寂しくも感じます。なぜなら、楽しいままあっという間に大学生活が過ぎ去ってしまうかもしれないからです。また、不安も徐々に募ってきたことも見逃せません。この大学に入学したのは、ただ楽しい大学生活を満喫するためではないことを忘れてはいけません。僕たちは「保育士」「幼稚園教諭」「小学校の先生」等の夢をかなえるために入学したことをしっかり念頭に置きながら、残された3年間を過ごさなければなりません。

これからの残りの3年間を思い出のある楽しく充実した日々にしていくと共に、これからどのように大学生活を送ってゆくのかを考えたいと思います。そして3年後には胸を張って堂々と名古屋芸術大学を卒業していけるよう努力し、これから頑張りたいと思います。



名古屋芸術大学後援会 研修旅行報告

## 神話の国 島根へ



島根県立美術館前

朝早くの出発でした。その日は天候に恵まれ、行楽日和。本年度は、例年より少ない人数でしたが、榊学長、神戸美術学部長、太田人間発達学部長にも参加していただき、10月13日～14日、島根県へのバスの旅となりました。初日の目的地は、島根県立美術館。一泊の研修旅行としては、片道8時間のかなりハードな旅でした。

宍道湖のそばにある島根県立美術館に着いた時には夕方近く。バスに乗っていただけで疲れ、作品を見る元気が残っているか心配なくらいでした。しかし、企画展示されていた「モディリアーニ」の作品は、すばらしく、その迫力に圧倒され、感動し、疲れていたことなど忘れてしまうくらいでした。また、常設の作品も充実しており、時間を忘れて堪能することができました。そして、夕日の見える美術館としても有名な島根県立美術館でしたから、作品を見終わった頃には、ちょうど夕暮れ時で、美術館のテラスの外に出て見れば、日も翳り、美しい夕日と虹の



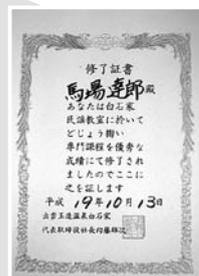
▲幸せのウサギの前で

宍道湖を見ることができました。そこには、「幸せのウサギ」の彫刻が外の庭園から宍道湖へと走っています。そのかわいい姿に楽しくなり、思わず、触ったり、記念写真を撮ったりしました。

宿に着いた時には、日も落ちていましたが、ゆっくりと湯につかり、旅の疲れがとれる思いでした。玉造温泉では、宴会で、安木節の実演と銭太鼓が見られ、楽しめました。また、後援会のメンバー3人の方には、無理をお願いして、簡単な講習のあと安木節の実演を披露していただきました。プロ顔まけの筋のよさに、会場は大盛り上がりで、島根の文化の一つを体験したひと時でもありました。



▲夕暮れの宍道湖

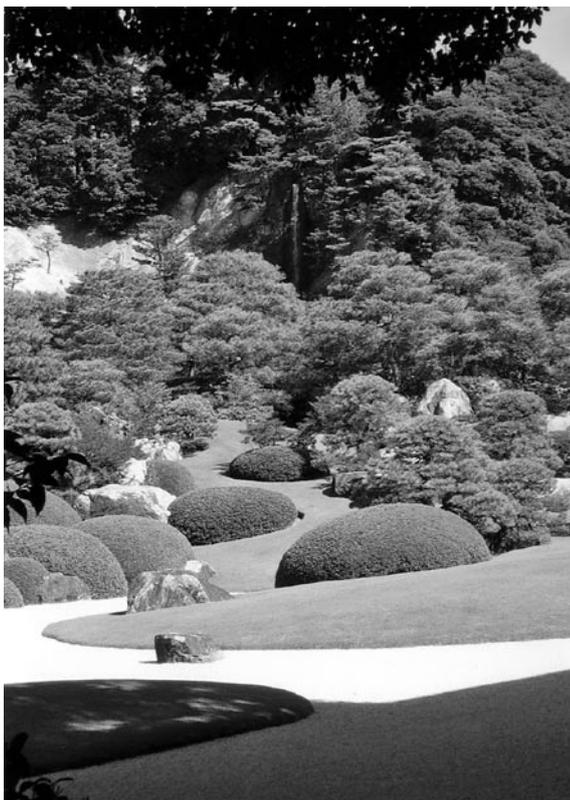


▲玉造温泉にて



足立美術館

そして翌朝、一番のメインである足立美術館へと足を運びました。はるばる来た美術館は、日本一の庭園を持つ私設の美術館ですが、地味な入り口から想像ができないくらい、入ってすぐから圧倒されま



▲足立美術館前

す。目にした大きなガラス窓には、信じがたいほど美しい風景画のような庭園が目に飛び込んできます。近景遠景、左右のバランスが抜群でどの角度から見ても完璧。天候に恵まれたこともあり、魂が吸い取られるように美しさに見入ってしまいました。借景としての遠くに見える山も管理されているとのことで、奥行きと広がりのある庭園になっていました。そして横山大観の作品が多く所蔵されていることでも知られる

足立美術館は、これも半端でなく、質、量ともすばらしく大観のスケールの大きさに感動し、ここでも時間を忘れて見入ってしまいました。何時間あっても足りないくらいの足立美術館でしたが、その日のうちに名古屋に着かねばということで、心残りのうちに島根を後にしました。

2つの美術館は、想像以上の感動を私たちに与えてくれました。こんなすてきな時間を大学の先生方や後援会の皆様と共有でき、幸せです。ありがとうございました。また、多くの方々がこの年に一回企画される研修旅行にご参加くださることを心待ちにしております。

事業委員長 島田加寿子



# 東キャンパス 大学祭 MARBLE2007



今年の芸大祭テーマ「MARBLE2007」。学生生活で4回しか行われぬ学祭。それをきっかけで出会った人もいます。地域の方々や企業の方々・来場者の方々とも触れ合えるよい機会だと思います。私達は、そんな機会を与えられたら、そしてその機会ですぐ多くの人が出会い・触れ合い、感動や笑顔を通し、新しい絆が生まれたらという気持ちをテーマに込めました。

昨年好評だった、多ステージによるジャンル別ライブ。ブルーステージではジャズを中心に落ち着いた大人な空間を演出。グリーンステージでは、学生ならではの個性派バンドが多数出演。内装も凝るなど、芸大生らしさが出ていました。イエローステージは、音大ならではのクラシック系団体による実力ある演奏会。伝統のあるスペルマホーンズを筆頭に昨年以上の出演数で開催しました。学祭の中心に位置するメインステージでは、テーマに込められた「出会い」を実現できるような企画を中心に学生や先生によるライブ演奏も開催。人間発達学部のJoy-tripステージでは子供向けの企画も取り入れて行われました。



初日・2日目は雨の中での芸大祭。一時、企画がストップするといった事態もありましたが、そのおかげで皆が協力していたのも事実です。3日目は、天気も回復しここからが芸大祭の本番。地域企画の「また会いにゆきます」では、学生と地域の方とが交流。締めくくりとして盛り上げてくれたバンドと大いに盛り上がりました。

この3日間を通し、どれだけの人が出会い、笑い、涙し、感動したか。私には図りしれません。これは学生だけではないと思います。Marbleは、そんな様々な色が混ざったお菓子から取りました。我が校は、年齢、性別、ジャンルに囚われない自由な学校です。そんな色をこの芸大祭で出せたのではないのでしょうか。私もこの芸大祭を通し、様々な人と触れ合い、多くの人と共に取り組めた事に感謝致します。



芸大祭実行委員会(音楽学部・人間発達学部)  
実行委員長 早川彰久

2007  
西キャンパス  
芸大祭

# 「はじめまして。」



はじめまして。2007年度芸大祭のテーマ「はじめまして。」は、すべての出会いのきっかけを表わす言葉です。私たち芸大祭実行委員会は、この言葉の持つ力に注目しました。そして、この芸大祭に一つだけルールを作りました。それは「誰に会うときでも合い言葉は『はじめまして』」。

誰もが「はじめまして」と言うことで、出会いのきっかけが生まれます。芸大祭を通して新しい出会いが生まれたり、知っている人に改めて「はじめまして」と言うことで新たな側面が見える。そんな出会いが連鎖していく芸大祭になることを願ってこのテーマを決めました。今年も、子供からお年寄りまで誰からも愛される芸大祭にしようと思い、イベントを企画しました。

まず、北名古屋市民の皆様との交流をはかるために、巨大壁画アートイベントを行いました。普段はなかなか機会がないのですが、多数ご参加いただいた地域の皆様(特に小さなお子さん達)と名芸大生との良い交流の場となりました。

また、以前は芸大祭の伝統であった「おばけ屋敷」を復活させ、親子連れのお客さんなどで長蛇の列ができるほどの人気になりました。その他にも「日本一長いきしめんを作るギネスイベント」「名芸大No.1の美女、No.1のエンターテイナーを決めるミスコン・ドラゴンイベント」などが開催され、こちらも大盛況の内に終わることができました。

外来イベントでは、世界的に有名な「渋さ知らズオーケストラ」をゲストとして招きました。ジャズ・ラテン・ポップス・舞踊までもが一体となったライブパフォーマンスは圧巻でした。

最後になりましたが、今年の芸大祭の成功は、模擬店・企画店の皆様や地域の皆様のご協力のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。



芸大祭実行委員会  
(美術学部・デザイン学部)  
実行委員長 滝澤和也

## 後援会補助公開講座実施報告

音楽学部

### 「第6回 歌曲の夕べ」を終えて

(声楽選択コース主催)

いくらか春の気配を感じるようになりました。先日の2月8日、後援会の補助を得まして電気文化会館ザ・コンサートホールにおいて「第6回の歌曲の夕べ」を開催できました。紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。おかげさまで大盛況の内にコンサートを終了いたしました。この公演もはや第6回目になり学生もこの演奏会へ出演する事の喜びを感じてくれるようになりました。この公演は、声楽選択コースにおきましてはオペラ公演と共に大変重要な位地を占めています。オペラは演技を伴って立派な舞台とオーケストラで歌います。しかし歌曲は派手ではないですが、自分の声のみで繊細で明確な心からの歌を歌わなければなりません。その表現方法はオペラより難しいかも知れません。この演奏会では、声を使った表現方法として「詩の朗読」も取り入れて、詩の内容を如何に観客に伝えるかを学ばせています。今回も学生諸君はそれぞれ立派に歌い、朗読もこなしたと思います。また聴衆の皆様も学生たちの演奏を楽しんで下さっていたように見えました。今後とも内容の充実に努め学生の努力に期待したいと思います。また来年もこの演奏会にご来場頂きますようよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

演奏学科声楽選択コース  
教授 澤脇達晴



### 「サマーコンサート」

(ピアノ選択コース主催)

ピアノ選択コースでは学生になるべく多くの舞台を経験させることにより演奏への意欲や難しさ、楽しさを体験してもらっています。そのうちのひとつとして、毎年サマーコンサートを実施しています。今年度は後援会よりご支援をいただき無事開催することができました。まことにありがとうございました。

2007年8月4日(土) 17時30分より名古屋市の電気文化会館ザ・コンサートホールで、満員の聴衆の中、1年生から3年生までの26名の学生が日頃の勉強の成果を発表することができました。皆様に聴いていただき温かい拍手による励ましで大きな自信とさらなる勉強意欲をいただくことができました。また、今回残念ながら出演できなかった学生には次回チャレンジするという目標ができました。これからも学生のためにぜひ続けていきたいと考えております。

### 「モーツァルティウム・ピアノセミナー」

(ピアノ選択コース主催)

2008年2月12日より4日間、オーストリア・ザルツブルグのモーツァルティウム音楽大学よりクラウス・カウフマン教授とトーマス・ベッケラー教授に来ていただき、ピアノセミナーを開催することができました。偏に後援会の皆様からの援助で実現できました。心より感謝いたします。

48名という多くの学生がお二人の先生から個人レッスンを受け、皆それぞれとても良いアドバイスをいただいたり、音楽をする喜びを感じたようです。また、4日目の15時15分からベッケラー先生の公開講座を開催し、多数の学生、熱心な聴衆の方々が聴講されました。モーツァルトのピアノソナタについての基本的なとらえ方、大切なポイントなど公開レッスン形式でなされ、興味深いお話をわかりやすくたくさん聞くことができました。

演奏学科ピアノ選択コース  
教授 岡 由美子

## 後援会補助公開講座実施報告

美術・デザイン学部



『フェラーリから鉄瓶まで—そしてこれから』

## 奥山清行展

名古屋芸術大学が多くのカーデザイナーを輩出していることはご存知だと思います。今年も何人かの卒業生がカーメーカーや関連メーカーへ進みます。カーデザインの分野で日本が果たす役割はとて大きく、日本発のデザインが各カーメーカーにより全世界に発信されています。また、日本人カーデザイナーが世界中で活躍するようになってきています。けれども残念なことに、このことはあまり知られていないのが現実です。本学ではこんなカーデザインにスポットライトを当て、海外のメーカーやデザイン会社で活躍してきた世界的なカーデザイナーである奥山清行氏を特別客員教授にお迎えし講演会と展覧会を開催しました。

展覧会は2007年11月3日から20日まで本学アート&デザインセンターで開催され、カーデザインと併せて奥山氏が最近山形工房を起こして取り組んでいるプロダクトデザインの2つの構成で展示されました。

カーデザインは2008年3月にジュネーブモーター



ショーでの発表予定で、まだ開発中のスポーツカープロジェクトを中心に、そのスケッチからフルサイズのモデルまで開発プロセスのすべてを、大胆にも実車完成前に世界に先駆けて本学で発表しました。これはカーデザインにおける広報のあり方を大きく覆すインパクトがありました。

また、奥山氏がこれまでにデザインを担当したフェラーリや、マセラティーなど特に有名なモデルのスケッチ、同じく2輪やトラックまで、実際にデザインの現場で描いてきたスケッチも多数展示され、多く来場者の目を釘付けにしました。

ニューヨーク近代美術館に永久保存されたポット『繭』シリーズをはじめとした山形工房関連では、日本の匠の技とデザインの融合、そして海外への発信などのメッセージとともに、実際に商品として開発されたプロダクトを展示、併せてその開発の様子、スケッチなどが詳細にわたって展示されました。

プロのデザイナーやプロダクトデザインを学ぶ学生、それに自動車好きのマニアの方など専門分野に造詣が深い方が多く来場されました。会社が終わってから飛んで来られた中部地区の自動車メーカーのデザイナーも多く、閉館ぎりぎりまで見学し、さらにもう少し時間を延長して見せて欲しいというリクエストが何度も寄せられました。

デザイン学科

インダストリアルデザイン選択コース

准教授 片岡祐司

## 版画研究室主催の5つの対外的な展覧会

### ①「From Remisen #9 ; Karen Degett & Regis Rizzo」展

\*公開制作：2007.5.8(火)～30(水)

於 スタジオ(Art & Design Center 1F)

\*特別講演『自作について語る』：5.15(火) 於 大講義室(B棟2F)

\*展覧会：6.1(金)～13(水) 於 ギャラリーBE

1999年度より、デンマークのレミセン・アカデミーと本学との2名ずつの作家の交換プロジェクトを開催しています。今年は、デンマーク側からは、カレン・デゲットさん(スウェーデン)とレジス・リッツォさん(フランス)の2名の画家が来日し、約3週間の公開制作と特別講演会、スタジオで制作した作品による展覧会『From Remisen』展を開催しました。



①制作中のカレン・デゲットさん

### ②「版の方法論～京都と名古屋から～」展

\*展覧会：2007.6.5(火)～17(日) 於 ギャラリーCASO<大阪市>

\*座談会「版画教育の現場から～その成果と次の世代へ～」

\*座談会の記録集の作成(A6版/本文24頁)

約20年前、本学と京都精華大学は同時期(1980年代後半)に、大学の版画コースとしては遅れて版画専門実技教育に参入し、共に新たな役割を担ってきました。本学は版画コースの人材育成理念をより強化する形で2008年度より版画コースとは別にアートクリエイターコースを新設するなど、この20年間の版画専門教育の成果をふまえて、新しく動き出しましたので、次代を担う若い教員と大学院生の交流展と座談会で、今後の展望を確認してみました。



②展示風景

### ③「版の方法論 #4 ;そして、これから」展

\*展覧会：2007.10.26(金)～31(水) 於 ギャラリーBE

\*アーティスト・トーク 10.27(土) 於 ギャラリーBE

版画コース卒業生のレベルの高い作品を芸大祭中に学内で紹介することで、学生及び芸大祭を訪れた学外の方々に広く見ていただく企画展を開催しました。会期中の10.27(土)には、AO入試でアートクリエイターコースに合格した高校生を対象に、7名の出品者が、わかりやすく自作について語るアーティスト・トークの機会も設けました。



③展示風景

### ④「After Remisen #9 ; 近藤千鶴×早川知加子」展

\*展覧会：2008.1.29(火)～2.8(金) 於 ギャラリーBE & be

\*小冊子の作成(A6版/16頁)

昨年7月にブランド市で開催された"International Workshop for Visual Artist in REMISEN BRANDE"に招待された卒業生作家、近藤千鶴さんと早川知加子さんの帰国報告展を開催しました。

初日のアーティスト・トークでは、デンマークでのワークショップの興味深い話を、会場を訪れた学内外の多くの方々に披露していただくことができました。



④早川知加子さんと近藤千鶴さん

### ⑤「いのちときぼうのアート展 PART 2」

\*展覧会：2008.3.18(火)～23(日) 於 葵丘倶楽部<岡崎市>

ホスピス・緩和ケア病棟に飾っていただく作品を制作するために、緩和ケア医師などを招いて4回の連続講座を開催し、14名の学生たちが作品を制作し、まず上記のような展覧会を開催しました。

患者さんに使ってもらうために学生たちが制作した消しゴム版画も活用されました。



⑤展示風景

版画研究室  
准教授 西村正幸

## 後援会補助公開講座実施報告

人間発達学部

2007年9月15日(土) 15:00~16:30 東キャンパス 3号館 音楽講堂にて人間発達学部第一回の公開講座を開催しました。講師は、東京大学教育学部教授を経て、2007年4月から白梅学園大学教授・副学長になられた、汐見稔幸先生。テーマは「保育の専門性向上への期待—保育所保育指針、幼稚園教育要領の改訂のねらいをめぐって—」というものでした。

今日、改訂作業が進行中のこともあり、現職の幼稚園教諭、保育士の皆さんも大勢参加していただき、ご熱心な、話術にも長けた講師のご講演に引き込まれておりました。先の改定から10年、この間の社会や子育て状況の変化の中、教育要領や保育指針がどのように変えられようとしているか、保育指針改定作業に実際に委員として携わっている立場から、改訂内容を明示された後、教育・保育研究者としてのご自分の問題提起もされました。

### <幼稚園教育要領の改訂の骨子>

- ①いわゆる「小1プロブレム」=小1になった時に、集中力・我慢強さ・忍耐力がなくて授業にならない現状を改善するため、「放任」型保育の引き続いての是正。
- ②幼小の連携の強化。子ども同士、教師同士、カリキュラムなど。
- ③「預かり保育」は、正規の保育のカリキュラムと密接に連携させて行うこと。
- ④幼稚園における子育て支援機能の強化。子どもの発達支援だけでなく、保護者の子育てについても支援できるような体制・内容・方法の工夫。
- ⑤幼児教育の位置づけの向上。

### <保育所保育指針の改訂の骨子>

- ①従来の保育のガイドラインから、教育要領と同等の告示化へ。法的規制あり。大綱化し、細部については、解説書を作成。
- ②幼保の区別をなくし、誰でも質の高い、きめ細かな幼児教育を受けられる時代へ。
- ③自己評価と研修の強化。

### <汐見氏のまとめ>

自然が失われ、生産的活動が目の前から消え、消費奨励とメディアによる疑似体験の氾濫の中、自主性を養うために遊びの奨励策が進められたが、子ども中心の保育が行き過ぎ、教師の指導性が軽視され、「放任」に流れてしまったことに対し、適切な是正を図ること。教師は子どもの実態に合わせ、助言、援助、指導など多様な役割を担わなければならない。

2007年度 名古屋芸術大学 特別公開講座  
**保育の専門性向上への期待**  
**—保育指針、教育要領の改訂のねらいをめぐって—**  
**2007年**  
**9月15日(土)**  
**15時開演 (14時30分開場)**  
**会場** 名古屋芸術大学 東キャンパス 3号館 (音楽講堂)  
 〒461-8503 愛知県北名古屋市鶴之庄古井251 (http://www.nua.ac.jp)  
 名鉄大山線 鶴之庄・名古屋芸術大学下車 徒歩 800m 徒歩 8分

**講師** 汐見 稔幸  
 東京大学教育学部教授  
 名古屋大学大学院教育学部教授  
 東京大学大学院教育学部教授  
 現職 白梅学園大学 教授・副学長  
 専門 教育、保育、子育て

**参加費** 無料  
 申し込み 電話 052-731-1111  
 会場 名古屋芸術大学 東キャンパス 3号館 (音楽講堂)  
 申し込み 電話 052-731-1111  
 申し込み 電話 052-731-1111

**主催** 名古屋芸術大学人間発達学部  
**協賛** 名古屋芸術大学後援会  
**後援** 名古屋市教育委員会  
 名古屋大学教育学部  
 名古屋大学大学院教育学部  
 名古屋大学大学院教育学部  
 名古屋大学大学院教育学部

参加費無料

「育ちの生態系」が変わり、家庭だけでは対応できない状況があるため、幼稚園・保育所の役割がますます重要になっている。幼児教育の義務教育化、無償化も検討され始めている。

幼児期にはどのような力をつけておくべきか、学校教育とはどのように違わなければならないのかについても研究を深め、今こそ保育の専門性を向上させていくべき時、チャンスである。

### <学生たちの感想>

「今話題の教育要領、保育指針について分かりやすく説明していただき、とても興味をもてました。これから、子育てに悩むお母さんやお父さんを支援することが多くなると思うので対応できるように一生懸命勉強したい。」

(1年生 女子 Y・H)

「今の保育における課題は何か、またそれに対する解決策はどうすべきかを講義して下さい、とても興味深い話で聞き入ってしまいました。もっと聞いていたい気持ちでした。」

(1年生 男子 S・H)

子ども発達学科  
 教授 野原由利子



2007年度

## デザイン学部 レビュー展

2007年度デザイン学部レビュー展がさる1月17日より24日まで名古屋芸術大学西キャンパスの体育館、X棟などの会場でおこなわれました。これはデザイン学部デザイン学科の1～3年生が、一年間の成果を発表する場です。年末から年始にかけては、学生も教員もその準備に追われて大変ですが、目に見えるかたちで成果を発表することは、自分自身を振り返るとともに今後の目標を計画するのに良い機会です。また、これからコース選択をする一年生にとっては、先輩たちの作品は大変参考になります。そして、今年も1月19日(土)と20日(日)に一般公開され、沢山の来場客で賑わいました。次年度以降は、発表方法もポートフォリオやWebなど様々な方法を模索していく予定です。今後ご期待ください。

また、アート&デザインセンター（西キャンパス内）で4月18日から23日まで「2007年度デザイン学科レビュー選抜展」で開催される予定です。こちらは各コース各学年のなかから優秀作を選びすぐった展覧会ですのでぜひご高覧ください。

デザイン学科  
講師 瀬田哲司



## 国際交流 留学レポート

## 慶南大学校 「グローバル ハンマプログラム」 に参加して

美術学部絵画学科洋画コース 4年 石原沙織

これは本学と姉妹校締結している慶南大学校(韓国)で毎年8月に行われる、韓国を世界の人々に知ってもらうという約3週間に亘る韓国語及び文化プログラムだ。大学の国際交流センターの掲示板でこのプログラムを知り、授業料・宿泊代・テキスト代等無料という詳細に心魅かれ、大学生活最後の夏休みだし思いっきり韓国で遊ぼう!とひらめき参加を決めた。

慶南大学校は釜山から車で約1時間の馬山市内にある。釜山港からは、日本語がとても流暢な韓国人の大学スタッフに車で大学の寮まで送迎していただいた。また、慶南大学の日本語学科の学生がボランティアスタッフとして私たちを引率してくれたのでハングル(韓国語)がわからなくても大丈夫だと安心した。到着後、オリエンテーション・開会式が行われ、このプログラムに参加する日本・中国・台湾・タイ・インドネシア・ロシアの学生計約50人が初対面。お互いに早く話しかった様子で、自己紹介祭。色々な人達がいてとても面白い。

一方スケジュールに目をやると、3週間休みがなく一日中みっちり何かしらの授業・イベントが詰まっており、ついていけないかやや不安になる。まず、ハングルの授業の為にレベル分けスピーキングテストが3人1組で行われる。少しは読み書きできるような日本にいる間に準備してきたのだが、話す言葉は挨拶程度しかわからず、心配でドキドキした。

だが、韓国人の先生の韓国語での質問に、隣の子の答える言葉を真似て答えてみていたら、どう云う訳かなかなか良い解答だったようで、中級クラスに入ってしまった。授業についていくのが大変になったことに気づき「しまった…」と少し後悔する。全て韓国語で行われるハングルの授業、私は私同様に何故か中級入りしてしまい困っていたタイ人の女性と共にジェスチャーや英語を使って質問したり、覚えた数少ないハングルを繋ぎ合わせたりして、苦戦しながらも何とか毎日3時間の山を乗り越えた。授業はハードスケジュールではあったが、先生がゆっくり丁寧に教えてくれるので達成感があり充実していた。



授業はこの他に、礼儀作法(チマチョゴリを着たり、お辞儀の仕方を習う)、伝統楽器隊サムルノリの器楽体験、昔話や詩の朗読からハングルの読解を深めるための童謡講座、皿の絵つけ、韓国の伝統扇子作り、韓国料理教室にてビビンバ作り、どの授業も満足し、面白いものだった。特にテコンドーの授業は興味があったのと同時に、最後にテストがあることも聞いたので張り切って取り組んだ。先生1人と高校生数人に教えてもらい、板割りのキックのテストもうまくいき、合格できた。

韓国は、同じアジアで隣国だからなのか、街の雰囲気も人々の性格も日本と近く感じるところがあり、初めて来る場所なのに懐かしいような気持ちになったり、初めて会うのにもうずいぶん前から知っているような感覚に陥ることが幾度かあった。韓国は人と人の距離が近い国だと思う。

楽しみにしていた韓国の食事だが、それはもうボリューム満点で、味も美味しくてついつい食べ過ぎてしまい、常に腹はち切れんばかりな状態だった。日本に帰りたくないと思うくらい毎食楽しみで絶品揃いの食天国だった。学校から食事代が配給され、有名な韓国料理は全て食べることができた。感無量である。

しかし、せっかくの休みに疲れと食べ過ぎで高熱が出て寝込み、心配させたこともあった。その時スタッフの方が部屋までお粥と薬を買って持ってきてくれ、弱った身体が親切な心で温まり感動して涙が出た。韓国の人たちはとても友達思いで親切な人が多い。異国でその国の良いところにたくさん触れ合うことができて嬉しかった。

最後の日、受講者約50人が全員集合して講堂にてスピーチ大会があり、グローバルハンマプログラムでの思い出を一人ひとり教壇に立ち、つたないけれど覚えた韓国語でそれぞれ話す。みんなのことを忘れまい、と顔を目に焼き付けるようにして聞いた。この後皆とサムゲタンの店でお別れ会食をし、土産物を交換したり、談笑したり、別れを惜しみつつ最後の時間を過ごした。

ほんの3週間だったが、同じことに興味を持つ者が異国の地で集って出会い、異文化に触れながら、いろいろなことを感じ合い、コミュニケーションをとり、たくさん笑って素敵な友情と思い出が生まれた。本当に参加して良かったと思える。なかなかできない韓国のオリジナル溢れるドラマチックな短期研修なのでこれを知らない学生の方へ是非オススメしたい。

嗚呼、チョンマルカムサハムニダ。

### グローバル ハンマプログラムの 内容

(2007年度の場合)

#### 言語コース

韓国語、文化及び習慣を学ぶ。学習は毎日午前中に行われ、語学能力別クラスに分けられる。教員は全てプロとしての資格を持つ。

#### 韓国の文化及び 習慣コース

教室以外に社会参加の体験を通じて学ぶ。(観光旅行 史跡めぐり ハイキング 映画鑑賞等)

費用 本学学生は2名まで費用は免除される。(姉妹校提携校のため) 本人負担は往復の交通費及び個人的費用のみ。

募集時期 4月下旬～5月上旬、国際交流センター掲示板にて

## 名古屋芸術大学音楽学部 第35回卒業演奏会

2月29日(金)、3月1日(土)の2日間にわたり、しらかわホールにて、名古屋芸術大学音楽学部第35回卒業演奏会が行われた。今年卒業する生徒は4学科制最後という節目の年にあたるが、その中から30人の学生が選ばれ、4年間の勉強の成果を遺憾なく発揮していた。2日間で900人弱来場した観客も、惜しめない拍手を送っていた。

音楽学部演奏学科 講師 依田嘉明



## 名古屋芸術大学大学院音楽研究科第10回修了演奏会

3月4日(火)~6日(木)の3日間、しらかわホールにて音楽研究科第10回修了演奏会が行われた。今年も13名の学生が、教員・卒業生を中心とするオーケストラ「名古屋芸術大学コレgium・アカデミア」の伴奏により、大学院生としての緻密でそれでいて若々しい演奏を披露し、3日間で述べ700名集まった観客を魅了していた。

音楽学部演奏学科 講師 依田嘉明



## 第12回名古屋芸術大学大学院美術研究科デザイン研究科修了制作展

第12回名古屋芸術大学大学院美術研究科デザイン研究科修了制作展が3月4日(火)から9日(日)まで名古屋市東区の名古屋市民ギャラリー矢田で行われました。この春、大学院を修了する学生たちの創意工夫の中から作り上げられた作品が展示されていました。

芸術文化交流室



# 第35回名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部卒業制作展

## 『第35回卒業制作展』を終えて

学生たちの学部4年間の集大成として、今年も卒業制作展が2月26日(火)～3月2日(日)の期間、3会場に分けて開催されました。

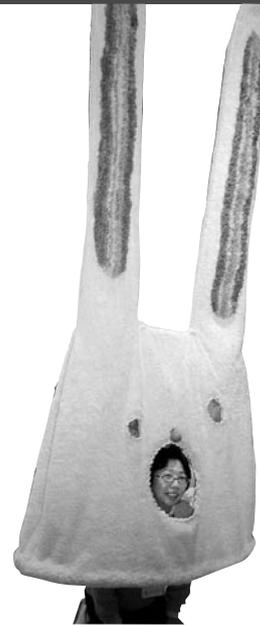
今年には愛知県美術館ギャラリーが、待望の増室が実現し、A～I展示室の9室(2室増)を使用することができ、例年になくゆったりとして見やすい展示となりました。ただ、美術館側の点検日が週の初めに当てられ、会期が通常の日減となる5日間の開催となったことは残念でしたが、1日少なかった割には、来場者数が5712名と昨年より458名も多く、本学の卒業制作展に関心を寄せて下さる方が大勢おられることの証ではないかと励まされました。



愛知県美術館ギャラリーには、A展示室から順に美術学部の美術文化学科、日本画コース、洋画コース、続いてデザイン学部のヴィジュアルデザイン、イラストレーション、ライフスタイルデザイン、メディアデザイン、メタル&ジュエリー、テキスタイルデザイン、スペースデザイン、インダストリアルデザインの各コースの作品が展示されました。

また名古屋市民ギャラリー矢田は、今年も3、4階全室を使用し、6日間の開催となりました。3階は造形科の彫塑選択コース、造形選択コース、ガラス選択コース、陶選択コースと版画選択コースの作品がコースごと

に一室ずつゆつたりと展示され、4階の大きな展示室にはデザイン学部のメディアデザイン、メタル&ジュエリー、テキスタイルデザイン、インダストリアルデザイン、スペースデザインの各コースの作品が一同に会しました。市民ギャラリー矢田の来場者数も1071名となり、ようやく定着して来た感があります。



もう一つの会場である本学西キャンパスでの展示は、洋画コースの学生5名がアート&デザインセンターとB棟視聴覚教室を使った大規模な展示を行い、展示人数の少なさを補うエネルギーに満ちた展示となっており、こちらも昨年度とほぼ同数の365名の方々が足を運んで下さいました。

また、会期中の講習会なども積極的に行われ、来場者も興味深く耳を傾ける場面も多く見受けられました。

恒例のスタンプラリー作品プレゼントも定着し、楽しみにして4会場全部を回って下さるリピーターの方々が増えて来ていることは、作品を提供してくれた版画選択コースとガラス選択コースの学生たちにとって、今後の活動に繋がる励みにもなっています。

次年度の卒業制作展も更に活気あふれる展示になるように願ってやみません。

卒業制作展委員長  
西村正幸



## 2007年度ブライトン大学賞

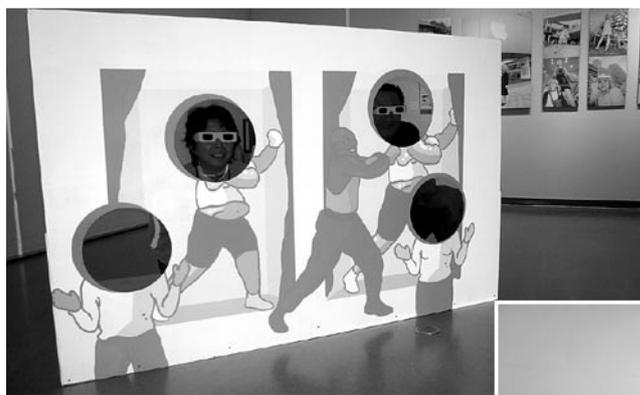
イギリスのブライトン大学賞の授賞式が、2月29日(金)午後4時30分より名古屋東急ホテルにて行われました。ブライトン大学よりジョナサン・ウッドハム教授とマクシン・ネイラー教授が審査員として卒業制作展の3会場を見られ各受賞者を決定しました。各受賞作品の講評とともに賞状と副賞が、ウッドハム教授より手渡されました。



▲受賞者のみなさん

### 2007年度ブライトン大学賞入賞者一覧

| No | 賞   | 副賞(奨学金)       | 科・コース                   | 氏名    | 作品名          |
|----|-----|---------------|-------------------------|-------|--------------|
| 1  | 1等賞 | 60,000円       | デザイン学科メディアデザイン選択コース     | 加藤 大貴 | 変幻自在コメディ板    |
| 2  | 2等賞 | 40,000円       | デザイン学科ヴィジュアルデザイン選択コース   | 鹿岡 真大 | 原色蝶効果類圖鑑     |
| 3  | 3等賞 | 20,000円       | デザイン学科メディアデザイン選択コース     | 菅沼 朋香 | 菅沼朋香の卒業制作展   |
| 4  |     |               | 絵画科(日本画コース)             | 田中 樹里 | 灯り           |
| 5  | 佳作  | 図書券<br>5,000円 | デザイン学科テキスタイルデザイン選択コース   | 上野めぐみ | 紙紀           |
| 6  |     |               | 絵画科(日本画コース)             | 伊藤 心太 | センチメンタリスト    |
| 7  |     |               | デザイン学科インダストリアルデザイン選択コース | 大西 功起 | 新教室生活.       |
| 8  |     |               | デザイン学科インダストリアルデザイン選択コース | 横山 七絵 | つつね          |
| 9  |     |               | デザイン学科ライフスタイルデザイン選択コース  | 橋口 萌  | 左きき事典        |
| 10 |     |               | 造形科工芸(陶) 選択コース          | 大澤 哲哉 | 線からの逸脱       |
| 11 |     |               | デザイン学科スペースデザイン選択コース     | 神谷 修作 | Campus Desk  |
| 12 |     |               | デザイン学科イラストレーション選択コース    | 出雲 昌也 | 絵本 プレーメンの音楽隊 |
| 13 |     |               | デザイン学科ヴィジュアルデザイン選択コース   | 林 麻里乃 | 十色           |



▲加藤大貴さん<変幻自在コメディ板>



▲鹿岡真大さん<原色蝶効果類圖鑑>



▲菅沼朋香さん<菅沼朋香の卒業制作展>

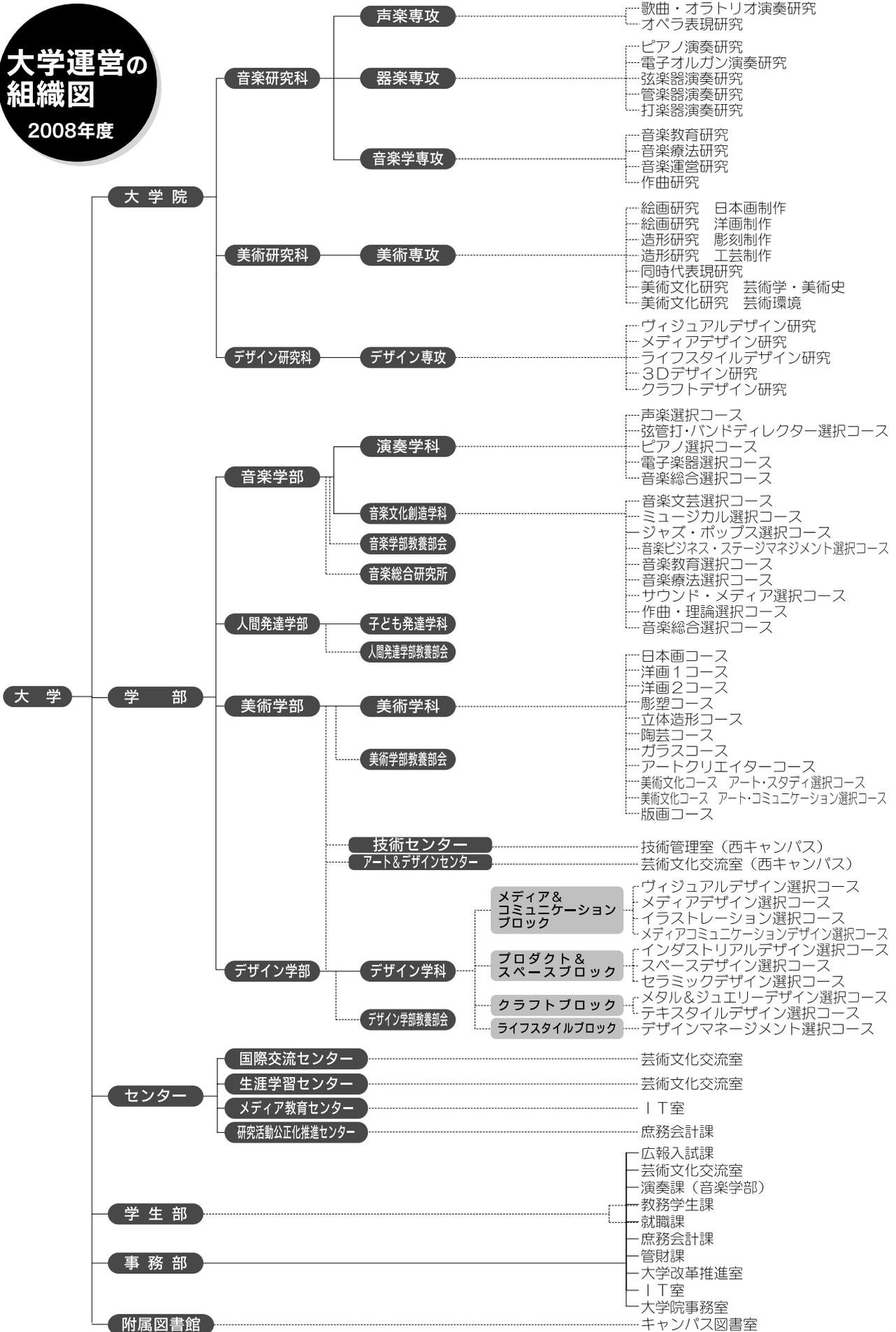


▲上野めぐみさん<紙紀>



▲田中樹里さん<灯り>

**大学運営の  
組織図**  
2008年度



## 第18回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座(報告)

今年度は、大学キャンパス内での講座を26講座開設いたしました。そのうち19講座を開講することができました。7講座は申込者数が一定以上にならず、やむなく閉講してしまいました。結果的には、例年とほぼ同じの受講者数です。しかし、名古屋市生涯学習推進センター主催の「大学連携講座」において2講座開設しました。右記は今年度開講した講座と受講生数の一覧です。なお、2008年度の講座は6月中下旬にパンフレットが出来上がる予定です。お問い合わせは、本学芸術文化交流室までお願いします。なお、名古屋市の講座につきましては、名古屋市生涯学習推進センターにお問い合わせください。

芸術文化交流室



▲エンジョイ！健康ウォーキング



▲やさしい創作折紙



▲木彫を楽しむ Part IX



▲人物(着衣)のデッサンと油絵実技



▲楽しい織物～部屋を彩る織雑貨～



▲作ってみよう！やきもの



▲親子で楽しむリズム遊び



▲子育て支援講座



▲音楽療法技法



▲ボンジョルノ！「楽しく知ろうイタリア」

### 2007年度 名古屋芸術大学生涯学習大学公開講座

|    | 講座名                                            | 受講者数 | 開催場所   |
|----|------------------------------------------------|------|--------|
| 1  | ルネサンス絵画の見かた<br>—ジョットからダ・ヴィンチまで—                | 7    | 西キャンパス |
| 2  | 人物(着衣)のデッサンと油絵実技                               | 17   |        |
| 3  | Macintosh CG入門！～Adobe Photoshopで簡単デジタルカラーニュ制作～ | 17   |        |
| 4  | 木彫を楽しむ Part IX                                 | 14   |        |
| 5  | 美しい水彩画II —秋の風景、花、果実を描く—                        | 31   |        |
| 6  | 作ってみよう！やきもの                                    | 7    |        |
| 7  | 体験！リトグラフ～多色刷り石版画で作品を～                          | 9    |        |
| 8  | エンジョイ！健康ウォーキング                                 | 13   |        |
| 9  | やきもの講座「あなたも陶磁器デザイナー～器のデザインから絵付けまで～」            | 9    |        |
| 10 | やさしい創作折紙                                       | 14   |        |
| 11 | 楽しい織物～部屋を彩る織雑貨～                                | 10   |        |
| 12 | 吹きガラスに挑戦！                                      | 10   |        |
| 13 | 音楽療法技法                                         | 12   |        |
| 14 | ボンジョルノ！「楽しく知ろう イタリア」                           | 8    |        |
| 15 | インターネットとWordではがき作成                             | 15   |        |
| 16 | 親子で楽しむリズム遊び                                    | 45   |        |
| 17 | 子育て支援講座「遊びのある子育て」                              | 21   |        |
| 18 | ピアノデュオの楽しみ 演奏とトーク                              | 102  |        |
| 19 | パソコンを使って簡単な作曲をしてみよう                            | 11   |        |
|    | 合計                                             | 372  |        |

### 2007年度 名古屋市生涯学習大学連携講座

|   | 講座名             | 受講者数 | 開催場所     |
|---|-----------------|------|----------|
| 1 | 日本の寺院・仏教・仏像     | 50   | 名古屋市女性会館 |
| 2 | 幼児期から思春期の育ちを考える | 39   |          |
|   | 合計              | 89   |          |

— 音楽学部同窓会・音楽学部共催 —

## 名古屋芸術大学 音楽学部卒業生懇親会

去る2007年11月18日(日)、名古屋マリオットアソシアホテルに於て、音楽学部同窓会、音楽学部共催の「卒業生懇親会」が開催され、参加者も約270名と、前回同様、大盛会となりました。山田正文会長、



堀田秀雄学部長の挨拶に始まり、懇親パーティーに突入。「今年の料理の量は余裕だな」と、高を括っていた担当の私の予想に反して、みるみる減って行く料理。なんとか最後まで持ちこたえたもののドキドキの2時間でした。また、功績のあった方に贈られる「ゴールドブライズ賞」は、青木明名誉教授(フルート)、中島基晴教授(声楽)、本学声楽科28期卒業生の笛田博昭さん(第9回マダム・バタフライ世界コンクール)で第1位受賞)の3名が受賞されました。

熱気さめやらぬ閉会後のロビー。みなさんの尽きることのない昔話や近況報告の話し声でいっぱいでした。

東キャンパス 広報入試課長 金子 靖  
(11期器楽科弦管打専攻卒業)



## 名古屋芸術大学 美術学部・デザイン学部同窓会



▲総会風景

去る、11月10日(土)に名古屋芸術大学美術・デザイン学部の同窓会総会・懇親会が東区葵の「白亜館・葵」において開催されました。3年連続の同じ会場での開催でしたが、懇親会では過去最高の200名を超える盛況となりました。

総会においては平成19年度事業報告・決算報告に続き、平成20年度事業計画・予算案が原案どおり承認されました。事業計画においては、同窓会名簿の作成や同窓会ホームページ改訂を予定していることなど、同窓会の活動情報や同窓生の活躍している状況を随時報告していくシステムづくりを計画している旨の説明がありました。

同窓会は有志によるスタッフにより運営されています。スタッフ一同は同窓生のために少しでもお役に立てればとの思いで活動しております。至らない点が多々あると思いますが、何卒、皆さまの一層のご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

西キャンパス 就職課 石川重明  
(19期絵画科洋画コース卒業)



▲ゴールドブライズ賞の受賞風景

## 後援会授業料貸付事業

世間では景気がよくなっているといわれますが、なかなか庶民はそれを実感することができません。このような中で決して安いとは言えない芸術系大学の授業料は、家計を直撃しているのではないかと思います。こうした状況の中で、保護者が亡くなられたり病気になられたり、失業された家庭は、ひどく大変だと思います。このような家庭の学生諸君の少しでも助けになればと考えて始められたのが、後援会の授業料貸付事業です。1993年にこの事業が始まってから、現在までに70数名の学生がこの事業の恩恵を受けています。

後援会員の皆さんが納められた会費を、この事業の基金としているため、むずかしい条件がついていますが、次の貸付規程を読まれて、後援会の授業料貸付事業を活用していただけたらと思います。申込受付窓口は、各キャンパス教務学生課となっています。気楽に相談してみてください。

### 名古屋芸術大学後援会学費資金等の貸付規程

#### (目的)

第1条 名古屋芸術大学後援会(以下「後援会」という。)が行う学生の福利厚生事業の一環として、家計急変等により学費の納入が困難な学生に対し、後援会が学費を貸し付けることにより修学を援助することを目的とする。

#### (定義)

第2条 この規程により学費の貸付を受ける者を、名古屋芸術大学後援会学費貸与生(以下「貸与生」という。)と称する。貸付する学費を名古屋芸術大学後援会貸付金とする。

#### (資金)

第3条 学費貸付金は次の資金をもってこれにあてる。

- (1) 後援会学費貸付口座預金
- (2) この規程に基づく返還金
- (3) 寄付金・その他の収入

#### (貸付額)

第4条 該当学年の学生納付金半期分以内とする。

- 2 貸付金は無利息とする。
- 3 未返済金がある者に対しては、貸し増しは行わない。

#### (貸付方法)

第5条 学費貸付は、大学授業料口座への振込みによって行う。

#### (審議)

第6条 貸与生及び貸付額の決定に関しては、学生部長が大学の全学教務学生委員会の審議を経て、後援会会長に推薦する。

#### (貸与生の決定)

第7条 貸与生の決定は、後援会会長が行なう。

#### (貸与生の選考基準)

第8条 貸与生の選考基準は、以下に基づいて選考する。

- (1) 1年以上継続した本会会員の子弟であること。
- (2) 家計急変等のため本学に修学することが、特に困難であること。
- (3) 応募者の属する世帯の1年間の総所得金額が独立行政法人日本学生支援機構の収入基準以下であること。
- (4) 修学に十分耐うるものと認められること。

#### (申請手続)

第9条 学費貸付を希望するものは、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

なお、手続は学生部教務学生課を窓口とする。

(1) 後援会貸付金借用願

(2) 貸付金返済計画書

(3) 学費貸付希望者の所属する学科長の推薦書

(4) 学費貸付希望者の属する世帯の1年間の総所得金額を証明する書類。

#### (借用手続・借用証書)

第10条 学費貸付決定者は、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

- (1) 借用証書(借用願と同じ保証人および連帯保証人の連署を要する)
- (2) 貸付金返済計画書に基づく同意書
- (3) 銀行口座振替依頼書(自動送金サービス用)(学籍を離れる時に提出するものとする)

#### (返還及期間)

第11条 貸付金は、学籍を離れてから3年以内で返還しなければならない。ただし、借用願出の際に虚偽の記載があった時は、直ちに返済するものとする。

- 2 返還方法は、一括返済または元金均等割とする。
- 3 貸付金の返還は、いつでも繰り上げて返還することができる。
- 4 返還は、学生部教務学生課を窓口とする。

#### (返還猶予)

第12条 貸与生が傷病・その他やむを得ない事由によって返還猶予を願い出たときは、相当と認める期間猶予することができる。

#### (権限委任)

第13条 この規程に基づく学費貸付金の貸付手続き及び返済收受等の一切の権限を学長に委任するものとする。なお、この規程で疑義が生じたときは、会長と学長が協議のうえ決定する。

#### (改廃)

第14条 この規程の改廃は、後援会の総会の議を経て会長が行なう。

#### 附則

- 1 この規程は昭和61年7月1日から適用する。
- 2 この規程は昭和63年4月1日から適用する。
- 3 この改正規程は平成16年4月1日から適用する。
- 4 この改正規程は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

# 名古屋芸術大学後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学後援会(以下「本会」という)と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。  
 (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。  
 (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。  
 (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。  
 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。  
 (1) 役員は総会において会員の中から選出する。  
 (2) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の任期は次のとおりとする。  
 (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐、会長事故ある時はその代理をする。  
 (2) 監事は会務を監査する。  
 (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。  
 (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。  
 (2) 会則の改定、会の解散に関すること。  
 (3) 役員の選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第14条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。
- 第15条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第16条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。
- 附則 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。  
 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。  
 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。

## 名古屋芸術大学後援会の弔意に関する内規

- 1 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
- 2 保護者(父・母)が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
- 3 役員の上親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
- 4 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
- 5 この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、2006年6月1日より施行する。

## 名古屋芸術大学後援会顧問の委嘱に関する内規

- 1 名古屋芸術大学の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
- 2 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
- 3 この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

## せせらぎ 会員募集

問い合わせ先 会長 長江政則  
〒480-1214 瀬戸市上品野町927  
電話 0561-41-1655

合唱をやることには次の効果があります。『ハーモニーを作ることで、顔の表情が豊かになる。』『交感神経に働きかけ、脳によい刺激をあたえる。』日本テレビの「世界一受けたい授業」という番組で講師の青島広志氏がおっしゃっていました。

まだあります。『姿勢が良くなる。』『声も良くなる。』『ストレス発散にもなる。』なるほど、そんな効果があるなら合唱万歳！

「せせらぎ合唱団」には子弟が芸大生現役の方、はるか以前に卒業してしまった方等、さまざまな老若男女が参加し、美声をはりあげています。なにもむ

ずかしい曲には挑戦しません。誰もが一度は子供のころに歌ったことのある文部省唱歌をおもに練習しています。どうぞ、一度練習をのぞいてください。お待ちしております。

(吉原征生)

練習日 毎月第3日曜日(都合により変更あり)  
時間 12時～13時30分  
場所 西キャンパス体育館(会議室)  
指導 江端智哉 先生  
山田正丈 先生

## ゴルフサークル 名芸会

### 会員募集

ゴルフサークル「名芸会」は、昨年秋の会で第28回の会を重ねてまいりました。早いものであしかけ15年になります。ハンディに関係なく女性も男性も参加していただき、30名くらいの会員数で運営し、毎回平均4組の15名ないし16名で愛知三県下のいろいろな違ったコースでプレイしております。春(4月の中旬)と秋(11月下旬)の年2回のダブルペリア方式で、半年のうつぶんを小さなボールにぶつけて、それは楽しい1日です。

後援会を通しての仲間友人同志が、何時も若々しく元気で健康に明日への活力を求めて楽しむ会です。上手下手関係なく参加してみませんか。特に女性の参加をお待ちしております。



問い合わせ先 会長 林 錠  
〒486-0852  
春日井市下市場町3-3-6  
TEL:0568-83-8368

幹事 武本秀輝  
〒457-0817  
名古屋市南区元柴田西町1-41-2  
TEL:052-611-6197



絵画  
グループ

## 壁の華を楽しむ

真剣な眼差でモデルに見入る顔、顔。手に持った粘土を注意深く練りこみながら、自分の想いを込めたトルソーを形作っていく。使い慣れた鉛筆やコンテで描く裸婦デッサンではなく、高さ20cm程の塑像を制作中の風景です。美しい身体を立体表現する事の難さと葛藤している時、先生のとっさのアドバイスで、今迄見えなかった線や形が見えて来る…。ワクワクしながら作り上げること2時間。それぞれの作り手の個性溢れる作品が出来上がり、幸せいっぱいの一時でした。

私は壁の華に入れて頂き15年になります。美術館巡りを趣味としていましたが、今まで、素晴らしい先生方や素敵な仲間達に囲まれ、描く事、創作することを楽しんでいます。

(山中光子)

### 活動状況

- 例会  
日時：毎月第3日曜日 午後2時～4時  
場所：西キャンパス体育館(体育館会議室/彫刻棟教室他)
- グループ展  
日時：4月29日～6日間  
場所：名古屋市民ギャラリー
- スケッチ会 10月予定
- 懇親会

### 入会希望者その他『壁の華』に関する連絡先

- 会長 アィカワ 淡川敏郎  
〒462-0802 名古屋市北区上飯田北町1-47  
電話 052-914-9565 090-8952-0261
- 運営委員長 森部みや子  
〒492-8075 稲沢市下津町西下町58  
電話 0587-32-2814

## ■「木祖セミナーハウス」をご利用ください

**所在地：**〒399-6203 長野県木曾郡木祖村大字小木曾4793

電話：0264-36-2570

**アクセス：**①マイカー利用—中央自動車道中津川インターより国道19号で90分走行、藪原より村道15分

②公共交通機関利用—JR中央西線藪原駅下車

バス利用25分「五月日(ごがつひ)」下車徒歩10分、

またはタクシー利用10分(要予約TEL. 0264-36-2403やぶはらタクシー)

**利用できる期間：**通年(ただし、12月30日～1月2日は休業)

**利用できる方：**①名古屋芸術大学ほか学校法人名古屋自由学院傘下の学校の学生・園児

②学校法人名古屋自由学院の教職員・その家族

③①の学校の卒業生・その家族

④その他特に使用が認められた方

(①の学生・園児の家族など)

(③④の方は、①②の方の紹介が必要です。)

**利用料(食事代は含まない)：**学生 1,000円

園児 500円

教職員 1,500円

その他 2,000円

(同伴の3歳以上小学生以下は1,000円、2歳以下は無料)



**食事：**利用申し込みの際に予約してください。(料金は夕食1,500円、朝食500円)

**利用申し込み手続き：**下記申し込み先へ、電話で仮予約をしてください。その後の手続きは、そのときにご説明します。

**付近の観光スポット：**「こだまの森」(テニスコート・プール・パターゴルフ・ピクニックガーデン・多目的運動場・バーベキューハウス・巨大迷路・溪流釣りなど)、やぶはら高原スキー場、木曾福島、上松、寝覚の床、野麦峠、上高地、白骨温泉、乗鞍高原など

**問い合わせ先・申し込み先：**学校法人名古屋自由学院法人事務局総務部総務課(TEL. 0568-24-0311)

### 編集後記

平成20年、新しい春を迎え今年も多くの新入生が入学します。

毎年この季節にきらきりと目を輝かせ、希望に胸を膨らませてくる彼らの姿を見るたびに心が和やかになってきます。

彼らはこれから名古屋芸術大学で、多くの人と出会い、多くの事を学び、自分の進む道を見つけていってくれるのでしょうか。そんな彼らの姿を目にする度に、私たちもあたたかく見守り、彼らの活躍を心から応援したいと思います。

広報委員長 荒川裕子

◆発行 名古屋芸術大学後援会

〒481-8535

愛知県北名古屋市徳重西沼65番地

TEL 0568-24-0325 FAX 0568-24-0326

◆編集 名古屋芸術大学後援会 広報委員会

◆表紙デザイン

本学デザイン学科学生 武藤理恵子

◆封筒デザイン

本学デザイン学科卒業生 福見光洋

◆発行日 2008年(平成20年)3月31日

